

II. 事業（取組）の概要 （当年度事業計画・MP戦略ごとの取組状況等）

1. MPに基づくAP（アクションプログラム（単年度行動計画））の実施状況

MP の計画実現性向上・成果創出のために、MP に基づく AP を策定し、全学的に実行しています。これらの当年度の実施状況は下表のとおり、全体の約 8 割（84.6%）が「80%以上の目標達成」となりました（前年比 6.5 ポイント増）。

なお、進捗度が 50%未満の取組を中心として、各セクションがその阻害要因、今後の解決方策等を、自主・自律的に明らかにし、設置校別に報告・検討会（AP 発表会）を行い、確実な改善に繋げることをとしています。

6年度APの部署等別実施状況

部署等名	事業等数 (レビュー対象)	進捗度別 事業等数		
		100-80%	79-50%	50%未満
工学部	46	37	5	4
情報工学部	26	24	1	1
社会環境学部	16	15	0	1
教養力育成センター	13	13	0	0
工学研究科	28	23	4	1
社会環境学研究科	6	6	0	0
総合研究機構	11	9	2	0
短大学科	28	23	2	3
〃 事務室	4	3	1	0
高校課程	27	20	3	4
〃 事務室	3	3	0	0
大学事務局	90	76	9	5
合 計	298	252	27	19
進捗度別比率	100 %	84.6 %	9.1%	6.4%

2. 大学のMP戦略ごとの具体的な実施状況

(1) 戦略Ⅰ（広報および募集活動の質的転換によるステイタス向上）

①基本的考え方（積極的な情報発信による外部評価向上と入学志願者の高位安定）

MP で掲げた諸施策（広報及び募集活動の質的転換（志願倍率九州 1 位、偏差値向上等）、入試制度改革等）の具現化・成果創出の度合いを高め、ステイタスアップを図り、これらの積極的な情報発信により外部評価が高まり、「入学志願者の高位安定」に寄与するとの考え方で、様々な学生募集活動を積極的に行っています。近年は、SNS やウェブサイトを活用した情報発信を強化し、受験生・ご父母等や高校に対するアプローチを多角的に展開し、大学の魅力を伝える機会を創出しています。

②取組状況（大学の志願者・入学者の状況）

全国私立大学の約 6 割が学生定員を満たせない中で、大学の入学志願者は 2 年度入試まで 14 年連続で増加し、その後も志願倍率 10 倍超（一般選抜九州地区最高位）で安定的に推移しています。当年度の総志願者数（延べ数）は 9,490 名（前年比 21 名増）、実志願者数は 2,973 名（前年比 99 名増）となり、前年より増加しました。

これは、受験生の「入試制度選択の早期化（年内入試志向）」に対応した入試制度改革（総合型選抜【理工系女子】・【探究】の新設）、一般選抜の受験機会拡充施策（大学入学共通テスト利用選抜の制度変更等）によるものです。（詳細、P.33~34 参照）

なお、当年度の入学者は、当初の計画（第 6 次中期財政計画）に沿って、所要の入学者を確保（大学 1,128 名（うち、女子 195 名（前述の入試制度や積極的広報が奏功し前年比 35 名増）））しています。過年度に続き「経営・財政の安定化」に貢献しています。

③評価・課題認識（外部環境の変化、理工系人材育成の要請への対応）

今後の学生募集活動について、外部環境（18 歳人口減少（福岡県は 2034 年以降の急減期が予測）、競合理工系大学の動向（国公立大学の定員増・易化、データサイエンス系学部の新設等）、受験生の入試志向等）が大きく変化する中で、理工系大学に対する社会的要請（とりわけ、九州地区の理工系人材不足）の高まりに的確に対応することが重要となります。

こうした変化を踏まえ、地域社会や教育環境の変化、多様化するニーズを的確に捉え、柔軟に対応していく姿勢がこれまで以上に求められています。

④課題達成方策（ブランド力強化施策による認知度拡大）

教育・研究力の高度化や入試制度の強化・見直しはもとより、本学の強みである「就職力（質の高い就職）」に結び付く教育・学生支援の取組を体系的にブランド化（「フライト F・LIghT」）し、ステークホルダー（受験生・ご父母等、高校、社会全般等）への認知度拡大を図ります。

あわせて、学生の活躍や学内の雰囲気伝える広報活動を強化し、「やる気のある学生が集う活気溢れた大学」としての魅力を、地域や教育関係者に向けて継続的に発信していきます。

⑤課題達成後の未来の姿（アジア・九州におけるステイタスアップ）

前述の施策等により、教育の質の向上や魅力ある学び、充実した学生支援の積極的な発信を通じて、地域に根ざした理工系大学としての存在感を着実に高めていきます。

そのうえで、アジア・九州における地理的優位性や、情報・環境・モノづくり（時代的要請）を活動領域とする特長、教育改革・改善への積極性を活かして、本学の訴求力を確実に高めていきます。

(2) 戦略Ⅱ（学修者本位の教育による付加価値向上）

・教育開発推進機構の取組

①基本的考え方（新たな教育改革・改善活動の全学的推進）

教育開発推進機構では、教育の質保証、教育能力の開発・向上、教育プログラムの開発・支援を柱として、全学的な教育改革・改善を推進しています。「教学マネジメント部門」ではカリキュラムの質保証を、「教育イノベーション部門」では教育改革の方針策定・実施を担い、学生の成長支援と社会が求める人材の育成を目指しています。

②取組状況（教育改革・改善等の諸施策）

1) 教育改革

7 年度から新たなディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）を導入し、学修者本位の教育システムを構築します。新 DP は測定可能な要素に分解し、「共通の能力・資質（8 つのコンピテンシー）」として明示します。これらは学習ポートフォリオ「FIT-AIM」（主体的学びのための双方向学習支援システム）により可視化され、学生の自律的な学修を促進します。

また、「デジタル力を備えた実践型人材（デジタルエキスパート）」の育成を目指し、幅広い教養と高い専門性を養うカリキュラムを導入しています。i) 高次アクティブラーニングの推進、ii) 自己成長を後押しする導入・接続教育の実施、iii) Future Vision 科目（専門横断科目）開講、iv) 数理基礎教育・AI データサイエンス教育の充実等を通じて、学生のデジタル力を高めていきます。

おって、カリキュラムモデルの共通化を進め、横断科目を開講（充実・実質化）することで、学生の学びの機会を拡大させていきます。なお、学生アセスメントとして、「学びの振り返りアンケート」を実施し、学生の成長度を評価し、次期の授業計画やカリキュラム改善に活用しています。

2) 教育の質保証

3 つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）の適切性とそれらの機能・役割の視点で、i) 教育課程、ii) 授業科目、iii) 学生・学修のレベル、それぞれのプロセスと成果を総合的に点検し、教育・授業改善と学生の成長双方の向上を図ります。

7 年度からは、認証評価に基づく点検評価項目の見直しを行い、毎年度の点検を簡易化し、数年間を単位とするプログラムレビューを導入予定です。

また、学生 FD（FIT-join）や学生授業サポート制度（TA/SA/CS）、教員表彰制度「FIT 教育賞」を通じて、学生の参画による教育改善を進めています。

③評価・課題認識（第10次MPの議論、教育点検活動等の課題認識）

第 10 次 MP の議論では、「学修者本位の教育」の推進と全学的なマネジメント改革の重要性が確認されました。現状の課題として、学生の主体性、多様な文化・人々への理解、発信力の育成が不十分であり、退学率や修業年限卒業率の改善の必要性も確認されました。

また、教育手法の DX 推進（システム整備）、社会と接続した教育の必要性、国内外の高等教育機関や産業界等との教育連携（FD 連携）も課題として認識しています。

④課題解決方策（新DPに沿った教育の実践と革新、自己成長をサポートする教育システム構築等）

新 DP の達成に向け、主要授業科目の精選と全学的なカリキュラムモデルの共通化を推進します。7 年度からは、複数学部・学科・コースの学生を対象に、Future Vision 科目（専門横断科目）を開講し、多様な背景を持つ人々（他学部・他大学、地域・産業界等）と協働して課題解決に取り組む学びの場を提供します。

また、学生 FD や授業サポート制度の充実を通じて、学生と教員の双方向による教育改善の対話を

活性化させます。教員の教育力向上に向けては、外部連携による FD 活動（産業界講師招聘、企業訪問、海外派遣等）の実施や表彰制度の活用を通じて、教育の質を高めていきます。

学生の主体性育成と自律的学修の習慣化については、「FIT トータルアシスタント」（学生の自己成長を促す教育システム）を展開して、学習ポートフォリオ（FIT-AIM）を活用した目標設定と振り返り、外部テスト（PROG）による到達度確認を初年次から段階的に実施します。

おって、教学 IR データ（成績分布、学生調査等）を活用した学修成果の可視化と教育支援システム整備（教育 DX 化）を進め、学修者本位の教育を実現と学生一人ひとりの成長を促します。

⑤課題解決後の未来の姿（「実践型人材（デジタルエキスパート）」の育成）

教育改革の全学的な推進と質保証体制の強化により、「学修者本位の教育」を確実に実現します。新しいディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラムの再構築、学修成果の可視化、学生と教員の協働による継続的な改善を通じて、学生一人ひとりの成長（主体的な学び）を支える環境を整備します。

これらの取組により、幅広い教養と専門性、そして高度な「デジタル力を備えた実践型人材（デジタルエキスパート）」の育成を進めます。学生は、多様な価値観を尊重し、他者と協働して課題に取り組む中で、変化の激しい社会に柔軟に対応する力を身につけます。

こうした改革を継続することで、本学は地域社会及び国際社会において信頼される高等教育機関としての役割を果たし、持続可能な未来の構築に貢献していきます。

・学習支援センターの取組（学生の主体的・自律的な学習活動の支援）

①基本的考え方

学習支援センターでは、学生の主体的・自律的な学びを全学的に支援することを目的としています。当年度は、「入学前教育」「基礎講座（前期・後期）」「FIT-in サポート（学習相談）」を中心に、学習環境の整備と学修支援の充実させました。

②取組状況（入学前教育・基礎講座・FIT-in サポートの状況）

「入学前教育」について、オリジナル教材を用いて学校推薦型選抜入試合格者を対象とした教育を実施しました。入学前プレテストと入学後のアフターテストの結果から、全学科平均点が上昇（6 点）するなど一定の学習効果が確認されました。

「基礎講座（前期・後期）」について、前期基礎講座では、「数学」と「レポーティング・スキル」を開講し、対象者の出席率が前年度より増加（14 ポイント増）しました。当年度は、新たに後期基礎講座を開始し、前期と同様に「数学」と「レポーティング・スキル」を設定し、学生の学習計画の立案と実行を支援しました。

「FIT-in サポート」について、カルティベーションサイト（E 棟 3 階）での学習相談、専門科目コーナー、不定期の勉強会を実施し、その利用者数は、前年度と比べて大きく増加（延べ 1,193 人増）し、学生の学習支援ニーズの高まりが明らかとなりました。

③評価・課題認識（学修支援センターのサポートで顕在化した課題）

当支援センターの取組は、前述の学生の出席率や学習成績（成果）の向上から、一定の成果として評価できます。一方で、学生への周知不足、基礎講座受講対象学生の選定方法、学習計画の立案（学生の学習計画立案への理解や自己調整管理）、正課授業との連携、正課科目の単位取得率改善等、引き続き対応が求められる課題も存在します。

④課題解決方策（正課授業との連携強化等、継続的な改善）

今後は、正課授業との連携を強化し、基礎講座の有用性を周知するとともに、講座内容の継続的な

見直しを行います。また、学生が自ら学習課題を設定し、計画的に取り組めるような支援体制を整備し、学修成果の可視化とフィードバックの仕組みを導入していきます。

⑤課題解決後の未来の姿

当支援センターでの、学生支援制度（運営体制）をいっそう強化し、学生が安心して学べる質の高い学習環境を整備します。これにより、学生の主体的な学びを促進し、学修成果の向上を図ります。また、学生同士が学び合う「ラーニング・コミュニティ」を形成し、協働的な学習文化を育みます。

こうした取り組みを通じて、学生一人ひとりが自らの可能性を広げ、将来のキャリア形成に向けた確かな基盤を築けるよう、持続可能で実効性のある支援体制を構築していきます。

・学生ケア、留年者・退学者（ドロップアウト）抑制の取組

①基本的考え方

本学では、学生の学修継続と修業年限内での卒業を支援するため、学生ケアを重要な教育施策と位置づけています。特に、「履修登録時（前期・後期）のサポート」「授業出席状況の早期・継続的ケア」「各種オリエンテーションによるケア」の3点を重点施策とし、教職員が学生に寄り添い、継続的に支援する体制を整えています。これにより、単位取得や進級・卒業支援等、学生一人ひとりの状況に応じた「きめ細やかな支援」を実現しています。

②取組状況（学生ケア支援策の状況）

「履修登録時（前期・後期）のサポート」では、進級・卒業条件の充足確認と面談指導、履修登録エラー指導等の対応を行っています。「授業出席状況の早期・継続的ケア」では、出席不良者を3～4週ごとに抽出し、面談指導を通じて授業出席を促しています。「各種オリエンテーションによるケア」では、単位不足者への学習促進講座や留年者向けの心構え指導、長期休暇前の振り返り等、適切なタイミングでオリエンテーションを実施しています。

これらにより、当年度の退学率は過去最少の2.45%（目標3%以内）、留年率は7.5%（同8%以内）、修業年限卒業率は78.3%（同80%、前年度72.3%）と、大きく改善しました。（詳細、P.40 参照）

③評価・課題認識（早期の学生ケアの実施）

学生ケアの成果は、毎年数値としても着実に成果として表れており、一定の評価ができます。一方で、休学者数は増加傾向（159名、前年比4名増加）にあり、主な理由として「精神的な不調」があげられます。これに関連して、出席率が低下傾向にある学生の早期把握や、教員・カウンセラーとの情報共有体制の強化が今後の課題と言えます。

④課題解決方策（横断的な学生支援体制の強化）

学生ケアはもとより、高等教育修学支援新制度の支援拡大や本学独自奨学生（経済的事由・特技特別等）制度に、迅速・柔軟に対応するため、前年度から、関係部署間の連携を強化しています。ここでは、役割分担の明確化、情報共有の促進、支援事項の決定等を実施します。「学生ケアの一体的な組織体制」の構築に向けて、迅速な支援体制の構築を進めています。

⑤課題解決後の未来の姿

前述の「ドロップアウト抑制」施策の成果により、ご父母等との面談においても「安易な進路変更よりも、卒業を目指したい」という声が多く聞かれるようになりました。これは、本学への信頼とステータスアップ（教育の質向上、社会的評価の向上等）の証左として高く評価できます。

今後も、教職員が学生に寄り添い、進路決定まで丁寧に見届ける全学的なサポート体制を強化し、ステークホルダー（ご父母、地域社会等）から信頼される大学としての地位を確立していきます。

(3) 戦略Ⅲ（特色ある研究によるプレゼンスアップ）

①基本的考え方

総合研究機構では、研究活動の活性化・高度化を目指し、研究環境の整備、研究者への財政支援、法的支援、知的財産管理、研究者交流の促進等、多岐にわたる支援策を展開しています。また、国・社会の研究高度化への要請から、研究成果の地域社会還元に向けた、研究者情報や研究シーズに基づく社会実装・実用化事例等の積極公表、共同研究機器の整備と学外開放等も積極化しています。

②取組状況（外部研究費の獲得状況、研究高度化の取組等）

国の科学研究費（日本学術振興会より有望な研究計画に付与される研究費（以下、科研費））の採択は、継続して高水準を維持しており、6年度は62件（前年度65件）採択されました。外部研究費捕捉額（科研費交付額を含む）は約2.19億円と高水準を維持しています。このほか、総合的な活性度指標となる学会発表件数、寄付受入、計測センター等の研究施設利用、外部との研究交流、外部研究費受入額等は増加・拡大し、研究活動の活性度は高位で安定しています。（詳細、P.41~46 参照）

6年10月に、本学初の国際学術会議（ICIESS*2024）を開催しました。アジア・太平洋地域13カ国181名が参加し、電子機器、材料科学、化学・生物学、コンピュータ技術等の分野で活発な議論が展開されました。*International Conference on Innovations in Engineering and Social Science

③評価・課題認識（外部研究費の維持・拡大、科研費採択実績の向上等）

外部研究費の受入額は、第9次MP目標（2.5億円）を概ね達成し、過年度から継続的に高水準を維持しています。産官学連携による共同・受託研究テーマも増加し、競争的研究資金の獲得件数は九州・沖縄地区でトップクラスに位置します。一方で、科研費の新規採択率が15%に留まっており、早急な申請サポート（申請支援体制強化、研究報奨制度等関連予算の拡充等）の充実が求められます。

科研費の採択実績には課題が残るものの、産業界等との大型共同研究契約（2,000千円超/件）の増加や、社会実装を前提とした共同研究（組織対組織）も順調に推移しており、これに伴う間接経費（研究環境整備の経費支援）も拡大傾向にあります。これらから、産学官連携による研究力の向上並びに研究成果を通じた社会貢献が、着実に進展していると評価できます。

また、本学初の国際学会の開催は、グローバルかつ多様な視点から、各自の研究分野での活発な議論と意見交換を展開するとともに、本学と協定校との将来に向けた教育・研究連携の萌芽を探る機会となり、今後の「国際的研究ネットワーク構築」に寄与すると評価できます。

④課題達成方策（科研費採択サポートの充実等）

科研費採択実績の向上（教育の申請数増加）に向けて、未申請者へのアプローチや申請サポートを強化します。外部専門機関を活用した勉強会や個別面談（教員のモチベーションアップを目的）、教員同士のピア・サポート等を実施します。科研費以外の競争的資金獲得に向けては、産学連携プロデューサーの増員による伴走支援を強化し、新領域での資金獲得を目指します。また、事業化支援機関との協働による起業支援プログラムを継続し、研究成果の社会実装・実用化を推進します。

おって、研究管理部門として、国・社会の研究高度化の求めの高まりに対して、研究スペース最適化、研究倫理・コンプライアンス教育実施、研究インテグリティ確保等に努めます。研究者が長期的に安定して研究を続けられるよう、研究資金の確保、研究設備の充実等、研究支援体制を強化します。

⑤課題解決後の未来の姿

研究高度化への的確な対応により、研究活動の活性化と成果の社会還元が進展。地域社会や産業界との連携が強化され、本学の「研究ブランド力」が向上し、地域（福岡県・九州地区）への貢献度が高まることが期待されます。

(4)戦略Ⅳ（キャリア教育と就職支援・進学支援による満足度向上）

①基本的考え方

入学から卒業まで一貫した体系的・系統的なキャリア教育を通じて、「実践型人材」の育成を図っています。キャリア関連科目ではアクティブラーニングを基軸とし、課題解決型の企業・学内インターンシップ（就業体験）を正課・課外の両面で展開し、実社会での実践力を高めています。

さらに、就職・就活対策講座、面接指導、産業界研究フェア、学内企業説明会、ご父母等ガイダンス、経済的支援などを通じて、学生の進路選択を多面的に支援し、「就職 100 %・満足度向上」を目指した一体的な支援体制を整えています。

②取組状況（「就職日本一・就職の福工大」の継続）

企業の採用活動が早期化・多様化する中、本学ではキャリア教育と就職支援を一体化し、学科と連携した個別支援を強化しています。就職率等の指標は、従前どおり「就職日本一・就職の福工大」を標榜するに相応しい結果（就職率：学部 99.9 %（8 学科で 100 %達成）、大学院 98.7 %、短大 100 %、実就職率：学部 98.1 %、大学院 97.5 %、短大 90.8 %）となりました。特に、上場・大手中堅企業の就職シェアは 75.8 %、上場企業シェアは初の 30 %超となり、「就職の質」も向上しています。

学内企業説明会やインターンシップフェア、業界研究会、OB・OG との交流など多面的な支援を通じて、学生は企業理解と進路意識を深め、第一志望企業内定率は 75.3 %で、学生満足度の向上にもつながっています。（詳細、P.47~48 参照）

③評価・課題認識（就職先の「質向上」等）

就職率や学生満足度は高水準を維持していますが、著名企業 400 社への実就職率（6.6 %）や専門技術職就職シェア（52.8 %）等は目標未達であり、就職先の「質の向上」が、今後の課題（第 10 次 MP 議論）と言えます。半導体やデジタル・グリーン分野など成長産業への人材輩出を強化し、地元・九州地域への貢献と全国的な大学評価の向上を両立させる支援体制の構築が求められます。

また、採用活動の早期化により、学生の準備不足や企業理解の浅さからミスマッチのリスクが高まっており、個々の特性に応じた「よりきめ細やかな」支援が必要と言えます。

④課題達成方策（新DPにそった、個別最適な就職支援）

第 10 次 MP に基づき、著名企業 400 社への実就職率 15 %、専門技術職就職シェア 60 %の達成を目指し、半導体・デジタル・グリーン分野など成長産業や上場企業を対象に、年間 50 件以上の企業訪問・交流会を戦略的に実施します。

また、新 DP で育成された学生の力を引き出す就職支援に向けて、教学 IR（学習ポートフォリオ「FIT-AIM」の学修・課外活動・資格取得等データ）を活用した「個別最適」支援を強化します。

おって、OB・OG の体験共有を通じて主体性や発信力を育成し、多様な学生（デジタル人材、グローバル人材、起業家人材、障がいのある学生等）に対応する支援体制を構築します。

⑤課題解決後の未来の姿

成長産業・著名企業との戦略的連携と新 DP に基づく個別最適な就職支援を通じて、学生は自身の強みや志向を深く理解し、自信を持って第一志望や著名企業、成長分野への就職を実現できるようになります。特に、半導体・デジタル・グリーン分野など地域の中核産業への人材供給が進むことで、九州経済への貢献と全国的な大学評価の向上が両立されます。

また、教学 IR データを活用した「個別最適」支援により、学生の力が企業での成果に直結し、就職後の定着率や活躍度も向上します。多様な学生が特性を活かして社会で活躍する力となり、大学のブランド力と社会的信頼が持続的に高まる好循環が形成されます。

(5) 戦略Ⅴ-1（グローバル化の推進）

①基本的な考え方

経済・産業・学術研究の急速なグローバル化に的確に対応するため、「FIT Global Vision for 2026」を策定し、教育・研究のグローバル化を推進しています。すべての学生が多様な価値観を理解し、共生力を育むことができる環境の創出を目指し、「海外留学と異文化交流の活性化」、「国際共同研究の推進」、「地域連携の強化」の3つのビジョンを掲げています。これらの実現に向けて、6つの重点戦略*を展開し、グローバル人材の育成に取り組んでいます。

* i) 国際適応力の指標確立、ii) 英語での専門教育の高度化、iii) グローバル企業への就職支援、iv) 研究連携先の開拓、v) 正課科目と連動した派遣・受入研修構築、vi) PBLでの国際連携促進

②取組状況（グローバルネットワークの拡大）

グローバル人材育成の重要性から、その経験学生を増加させるため、海外協定校を42大学（前年度38大学）に拡大しました。当年度は、新たに中国（2大学）、台湾、ベトナムの大学と協定を締結し、アジアを中心としたネットワークを強化しました。（詳細、P.53~54 参照）

また、国際適応力を有する人材育成を目的とした「Global Challenge Program（4年間一貫国際プログラム：4年度開始）」や「FIT-gPBLプログラム（6年度全学展開）」により、学生の海外派遣数は210名となり、実践型グローバル教育が拡充しています。もとより、外国人留学生の受入れ（290名）も、協定校からの短期・長期留学希望者の増加により、いっそう積極化しています。

③評価・課題認識（海外研修・国際プログラムの充実等）

「FIT Global Vision for 2026」に基づき、海外協定校の拡大、国際学術会議の開催、国際教育プログラムの導入など、国際化に向けた取り組みは着実に成果をあげています。

一方で、第10次MPの議論では、協定校との連携を深めるために、研究成果の向上や現地課題への貢献が必要であることが示されています。また、学生の語学力向上支援や長期留学を可能にする環境整備も、引き続き重要な課題とされています。正規留学生比率（0.8%）、学生派遣比率（4.1%）、国際プログラム参加者の有名企業就職率（12.2%）はいずれも目標を下回っており、教員への負担集中、日本語教育の不足、学修支援体制の未整備等の運営面の課題も顕在化しています。

④課題解決策（全学的なグローバル化推進体制の構築等）

グローバル化のいっそうの進展に向けて、全学的な協働体制を構築し、関連予算の拡充や教育施設の整備を進めていきます。学生派遣数の拡大に向けては、クォーター制度の導入検討、語学力向上支援、海外インターンシップやトップ学生向け留学プログラムの質的向上を図ります。留学生受入れの拡大に向けては、留学生別科の拡充、入試制度の新設、教育環境整備（人的・ハード面）を進めます。

今後も、アジアを中心とした協定校との連携を深めるとともに、欧米への展開や日本語学校との連携、日本留学フェアへの出展などを通じて、大学の認知度と募集力の向上を図っていきます。

⑤課題解決後の未来像

これらの取組を通じて、「FIT Global Vision for 2026」に基づくグローバル化を着実に進展させ、国際的視野と実践力を兼ね備えた人材の育成を実現します。海外協定校との交流・教育連携の深化は、地域（福岡県・九州地区）のグローバル化にも貢献し、国の教育政策に沿った取組として、地域社会との連携強化やSDGsへの貢献にもつながります。これらにより、大学間競争における優位性を確立し、特色ある私立大学としての地位を確立します。

(6) 戦略Ⅴ-2（地域連携の推進）

①基本的考え方

「実社会をフィールドとする学びの機会創出」と「地域社会貢献」を主要な目的として、社会連携センターを設置し、本学の特色を活かした教育と地域貢献活動を推進しています。これらの目的をより高いレベルで達成するためには、外部機関との連携が不可欠であると考え、自治体、企業、金融機関、医療機関、警察、他大学等との連携協定やネットワークの拡充に取り組んでいます。

②取組状況（地域連携・貢献活動の進展）

大学間連携、高大連携、産官学連携など、6年1月以降、福岡市（ボランティアセンター開設支援、防災教育協働）、福岡教育大学（教職大学院進学推薦枠）、法政大学（教育・研究・産学連携）など、新たに7件の連携協定を締結し、連携件数は延べ29件（7年3月現在）に拡大しています。（詳細、P.46参照）

また、古賀市、島原市、新宮町、篠栗町などの自治体と連携し、行政課題の解決に向けた様々な事業に取り組んでいます。特に島原市では、国土交通省の「共創・MaaSモデル実証プロジェクト」に参画し、学生がEVバスの走行実験に協力し、教員がデータ分析を担当しています。

地域の理工系人材育成の取組としては、「サイエンスフェスタ 2024 in FIT」（来場者約1,300名）や「サステナブルサイエンス」（女子中高生30名参加）を開催し、地域児童・生徒向けのモノづくり講座も実施しています。このほか、地域の多世代に向けた公開講座（年間53講座・延べ1,269名）や実社会をテーマとする課題解決学習（15件）等を実施しています。

リカレント教育の推進については、5年3月の文部科学省ガイドラインを踏まえ、6年2月に検討を開始し、4月には副学長を長とするワーキンググループを設置、11月に答申を提出しています。答申では、既存の教育リソースを活用し、地域企業や自治体と連携したプログラムの提供が提案されており、現在、具体化に向けた学内協議を進めています。

③評価・課題認識（地公体・産業界等との有機的な連携強化）

地域連携活動の活性化やリカレント教育推進体制の構築は、地域貢献の高度化と学園価値の向上に大きく寄与しています。第10次MPで掲げる「地域に選ばれる学園」の実現に向けた基盤形成としても高く評価できます。

一方で、地域ニーズの多様化に対応し、本学のシーズと的確にマッチングさせることが今後の課題であると認識しています。社会連携センターは、地域との橋渡し役（コーディネーター）として、質的転換を促す施策を推進し、その成果を広く社会に発信していく必要があります。

④課題解決方策（「地域に選ばれる学園」に向けた諸施策の実施）

「地域に選ばれる学園」の実現に向けて、地域貢献活動を軸とした以下の具体的施策を推進します。

- 1) 実社会教育の質向上に資するステークホルダー及び学びのフィールドの開拓、
- 2) 学園価値を高める地域貢献活動と生涯学習の推進、
- 3) 教育・研究・大学運営の質向上に資する大学間連携の深化、
- 4) 学びを広げる正課外教育支援制度の高度化を図ります。

⑤課題解決後の未来の姿

急速な少子化と超高齢社会の進行に伴い、持続可能で活力ある社会の担い手育成が求められています。高等教育機関には『知の総和』の向上と、産官学連携による地方創生への積極的な参画が期待されています。本学のリソースを最大限に活用し、地域と共創・共生する地域貢献活動を展開することで、地域にとって不可欠な教育機関として「地域に選ばれる学園」を確立していきます。

(7) データ・指標

①第9次マスタープランの進捗（令和4～6年度実績） <P. 21>

②戦略Ⅰ（学生募集） <P. 33>

- 1) 募集活動別動員数の推移
- 2) 学科ごとの延べ志願者数の推移
- 3) 入学志願者数の推移（入試種別）
- 4) 入学志願者・入学者数の推移（出身県別）
- 5) 女子学生の志願者・入学者の状況

③戦略Ⅱ（教育） <P. 35>

- 6) 授業アンケート集計結果
- 7) 教育開発推進室の活動実績
- 8) 奨学金・対象人数の状況
- 9) 学習支援センター(FIT-inサポート)利用状況
- 10) 留年判定者数一覧

④戦略Ⅲ（研究） <P. 41>

- 11) 外部研究費（科学研究費、受託研究費等）採択実績
- 12) 科学研究費採択実績
- 13) 地公体・公的機関研究費採択実績
- 14) 特許出願・登録案件一覧
- 15) 総合研究機構主催研究講演一覧
- 16) 総合研究機構主催研究成果発表会・技術講習会一覧
- 17) 総合研究機構の研究支援予算制度
- 18) 直近10カ年導入機器一覧
- 19) 自治体・企業・教育機関等との連携協定一覧

⑤戦略Ⅳ（就職） <P. 47>

- 20) 就職率・実就職率（全体・学科別）
- 21) 規模別就職状況
- 22) 業種別就職状況
- 23) 職種別就職状況
- 24) 地区別就職状況

⑥戦略Ⅴ（グローバル化・地域貢献） <P. 49>

<グローバル化>

- 25) グローバル化教育施策一覧
- 26) 国際交流実績一覧
- 27) オンライン英会話プログラム参加状況
- 28) 学術交流使節団の派遣・受入状況
- 29) 国外交流協定大学一覧

<地域貢献>

- 30) 社会連携PBLプログラム一覧
- 31) 社会連携関連行事の開催状況
- 32) 社会連携活動の取組状況・成果一覧

⑦その他 <P. 58>

- 33) 情報基盤センター関連設備利用実績
- 34) 図書館入館者数・貸出数
- 35) 社会連携センター利用学生の資格取得実績
- 36) モノづくりセンタープロジェクト大会等参加戦績
- 37) モノづくりセンタープロジェクト課外活動支援事業・寄贈
- 38) 学生表彰者（団体表彰・個人表彰・卒業時学業成績優秀者）
- 39) 学会表彰者

第9次マスタープランの進捗(令和4～6年度実績)総括

第9次マスタープラン（以下、MP）は、第8次MPで掲げた6つの経営戦略を継承しつつ、「学校法人福岡工業大学のブランド力の確立と強化」をテーマに、“学修者本位の教育の高度化”を最重要課題として位置づけ、各部門が目標達成に向けて取り組んできました。

以下に、第9次MPで設定された目標に対する実績を整理しています。本報告が、成果と課題を踏まえたうえで、第10次MPの目標達成に向けた有意義な振り返りとなれば幸いです。

【戦略Ⅰ】広報および募集活動の質的転換によるステイタス向上

[成果] ○一般選抜における定員充足率は毎年目標を上回り、安定的に確保。

○外部ステークホルダー向け広報活動を継続的に実施。

○入試制度改革を段階的に実施（総合型選抜の新設、情報科目導入など）。

[課題] ●偏差値は目標（工55 情57 社56）に届かず。※R5より偏差値評価の変更あり
（R4（工50 情52 社50） R5（工46 情49 社47） R5（工45 情48 社47）

●国公立併願かつ福大未受験の入学者数は目標未達（目標数200人）。

（R5入試：153人→R6入試：180人→R7入試：165人）

●短大の志願者数・入学者数が減少傾向。

（志願者数 R5入試：403人→R6入試：288人→R7入試：187人）

（入学者数 R5入試：159人→R6入試：154人→R7入試：109人）

●高校の志願者数・入学者数が減少傾向。

（志願者数 R5入試：2,332人→R6入試：1,837人→R7入試：1,364人）

（入学者数 R5入試：781人→R6入試：606人→R7入試：582人）

【戦略Ⅱ】学修者本位の教育による付加価値向上

[成果] ○自己調整学習の促進、学修成果の可視化を推進。

○学習支援センターの利用者数が安定して高水準。

○数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定取得（大学・短大）。

○退学率は3%未満を維持、卒業率も改善傾向。

[課題] ●FIT-AIM「目標と計画」「振り返り」の入力率の改善が必要。

（R4：前期87%・後期47% R5：前期78%・後期64% R5：前期62%・後期62%）

●教学執行部会議の規程化が未実施。（教学ガバナンス）

●高校の単位制・通信制への転学者数（目標0人）は改善の余地あり。

（R4:24人 R5:26人 R6:21人）

【戦略Ⅲ】 特色ある研究によるプレゼンスアップ

〔成果〕 ○Scopus 掲載文献数が着実に増加（5,075 本）。

○科研費採択件数・競争的研究費の獲得実績あり。

○社会実装・特許出願・登録件数も増加。

〔課題〕 ●大学院（工学研究科）の内部進学率が目標未達（目標 15%）。

（R4：11.0% R5：9.8% R6：11.2%）

●外部資金獲得額が 2 億円台を維持するも減少傾向。

（R4：250,108 千円 R5：249,799 千円 R6：219,113 千円）

【戦略Ⅳ】 キャリア教育と就職支援・進学支援による満足度向上

〔成果〕 ○大学・大学院ともに実就職率 95%以上を維持。

○上場・大手中堅企業への就職率が上昇。

○第一志望企業群への就職率が 98%超。

○短大の進路決定率も 90%以上を維持。

〔課題〕 ●専門職就職シェアが目標に届かず。

（大学（目標 60%以上） R4：46.5% R5：52.8% R6：50.1%）

（大学院（目標 80%以上） R4：71.0% R5：65.5% R6：62.4%）

●短大の情報関連企業職種就職割合が減少傾向。

（R4：55.1% R5：51.4% R6：46.8%）

【戦略Ⅴ】 グローバル化と地域連携の推進

〔成果〕 ○海外協定校数が 42 校に増加。（R4：22 校 → R5：38 校 → R6：42 校）

○地域連携活動（小中学生・地域住民対象）で目標超え。

○正課 PBL テーマの継続実施。

〔課題〕 ●正規留学生比率・日本人学生派遣比率が目標に遠く及ばず。

（正規留学生比率（目標 5%以上） R4：0.9% R5：0.8% R6：1.6%）

（日本人学生派遣比率（目標 10%以上） R4：3.2% R5：4.1% R6：1.9%）

●国際プログラム参加者の有名企業への就職も目標に遠く及ばず。

（（目標 50%） R4：7.7% R5：12.2% R6：未照会）

【戦略Ⅵ】 財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化

〔成果〕 ○教育・研究活動への積極的な財政対応を継続。

○相対的低学費を維持しつつ合理的還元を実施。

○教職員の働きがい向上施策を多面的に展開。

○AP 達成率が全体で 84.6%に到達（R6）。

〔課題〕 ●「独自奨学金制度」の在り方見直し

●ダイバーシティ & インクルージョンの推進

以上

第9次マスタープランの進捗（令和4～6年度実績）

戦略目標と実績 ※目標は第9次MP冊子の学園各論の目標値から抜粋

【戦略Ⅰ】広報および募集活動の質的転換によるステイタス向上

量的拡大（志願者増）の方向からの転換点と捉え、一定数以上の志願者・実志願者数を確保しつつ、広報および募集活動の質的転換を図り、全学一体となって学園のブランドイメージ創出とステイタス向上を目指す。

担当事務局：入試広報課、短大事務室、高校事務室

網掛け：目標達成

区分	目標（R4年度～R8年度）	R4（R5入試）実績	R5（R6入試）実績	R6（R7入試）実績
大学	（量的）一般選抜における九州志願倍率 1 位（目安 18 倍以上）	一般選抜における九州志願倍率 1 位（18.3 倍）	一般選抜における九州志願倍率 2 位（14.5 倍）	一般選抜における九州志願倍率 2 位（15.3 倍）
	（量的）財政要件を満たす定員充足率（1.13 倍、入学者目標 1,034 名）	財政要件を満たす定員充足率 2.2 倍（入学定員充足率 1.13 倍、入学者 1,038 名）	財政要件を満たす定員充足率（入学定員充足率 1.14 倍、入学者 1,069 名）	財政要件を満たす定員充足率（入学定員充足率 1.2 倍、入学者 1,128 名）
	（質的）偏差値向上（工 55、情報 57、社会 56）	偏差値 工 50、情報 52、社環 50	偏差値 工 46、情報 49、社環 47 ※偏差値評価の変更あり	偏差値 工 45、情 48、社環 47 ※R5 年度と同じ偏差値評価
	（質的）偏差値向上のプロセス指標：国公立併願かつ福大未受験の入学者数 350 人	153 人（22 年度募集戦略会議にて 200 人に目標修正）	180 人（22 年度募集戦略会議にて 200 人に目標修正）	165 人
	（質的）偏差値向上のプロセス指標：福大併願合格者の入学勝率 20%	福大併願合格者の入学勝率 9.5% 注）ベネッセ入試結果調査による最終値に修正	福大併願合格者の入学勝率 12.6% 注）ベネッセ入試結果調査による最終値に修正	福大併願合格者の入学勝率 35.4% 注）新入生アンケートによる
	（質的）外部ステークホルダーの要望を起点とする本学取組広報 3 件	・受験生が大学に求める「ワクワク感」を、SNS を通じて発信するとともに、大学案内の刷新で表現。 ・保護者に対しては、就職サポートならびにキャリア教育の充実度、優れた研究力をあらゆる媒体で発信。 ・社会人に対しては、有名企業を中心とした「採用を増やしたい大学」の要望を定着させるため、本学が持つ実践型人材育成のシステム等を DM にて採用担当に発信。	・受験生が大学に求める「ワクワク感」を、SNS を通じて発信するとともに、大学案内の刷新で表現。 ・保護者に対しては、就職サポートならびにキャリア教育の充実度、優れた研究力をあらゆる媒体で発信。 ・社会人に対しては、有名企業を中心とした「採用を増やしたい大学」の要望を定着させるため、本学が持つ実践型人材育成のシステム等を DM にて採用担当に発信。	・受験生が大学に求める「ワクワク感」を、SNS を通じて発信するとともに、大学案内の刷新で表現。 ・保護者に対しては、就職サポートならびにキャリア教育の充実度、優れた研究力をあらゆる媒体で発信。 ・社会人に対しては、有名企業を中心とした「採用を増やしたい大学」の要望を定着させるため、本学が持つ実践型人材育成のシステム等を DM にて採用担当に発信。

	(質的) 入試制度改革(大学入試の検討会議提言、新学習指導要領への対応等)	・25 年度 新課程入試外部公表済 ・25 年度 共通テスト利用選抜より文系(社会環境)も『情報』を課す入試種別を新設。 ・24 年度 有資格者選抜より全学科で英語外部検定試験を対象資格化。	・「新学習指導要領対応」の詳細決定 ・新入試制度の公表(総合型選抜の再編・拡充)	・総合型選抜【理工系女子・探究】の新設 ・共通テスト利用選抜【前期】を【前期 A (従来型)】と【前期 B (情報型) 新設】に制度変更
短大	(量的) 志願者数 400 人、入学者数 183 人	志願者数 403 人、入学者数 159 人	志願者数 288 人、入学者数 154 人	志願者数 187 人、入学者数 109 人
	(質的) 高大接続並びに入学後の学修に資する入試方法等の変更	2025 入試から「情報」導入決定	・推薦入試の自己 PR 文を手書きに変更 ・「情報」科目の新設	令和 8 年度入試から、総合型選抜に「女子特別選抜」導入決定
高校	(量的) 志願者数 2,000 人、入学者数 630 人	志願者数 2,332 人、入学者数 781 人	志願者数 1,837 人、入学者数 606 人	志願者数 1,364 人、入学者数 582 人
	(質的) アドミッション・ポリシーに基づいた入試の実施	18 名の若手・中堅教員による WG にて、各ポリシーの素案が完成	入試要項にも AP を記載し、受験生が AP を確認した上で受験できるような環境を整備し R6 入試を実施。	校長のアクションプログラムの重点目標の 1 つとして明記。受験生が AP を確認した上で受験できるよう中学校教員にも周知し R7 入試を実施。

【戦略Ⅱ】学修者本位の教育による付加価値向上

学修者本位の教育を高度化し、学生生徒の付加価値向上を果たすことが最重要テーマである。設置校の教育方針に則った上で、各部門が教育の独自性を発揮し、学修成果を学修者が実感できる教育を目指す。

担当事務局：教育開発推進室、教務課、学習支援センター、短大事務室、高校事務室

網掛け：目標達成

区分	目標（R4 年度～R8 年度）	R4（R5 入試）実績	R5（R6 入試）実績	R6（R7 入試）実績
大学	個別最適な学びを実現する学修者本位の教育を推進	令和 5 年度から、教育開発推進機構教育イノベーション部門において、主体的に学ぶ力を育成する自己調整学習の促進と学修成果の可視化を重点項目として位置づけ、具体的施策の検討を行っている。	・学生 F D（FIT-join）と機構長を交えた意見交換を年 4 回実施、教学 IR 体制の整備推進等。 ・6 年一貫教育（FIT Tech プログラム）の令和 6 年度後期実施承認	・質保証への学生参画（部科長会での発表、FDCafé での意見交換等）教学 IR の推進等。 ・6 年一貫教育（FIT-Tech プログラム）を令和 6 年度後期から開始
	FIT-AIM 期間目標と振り返り入力率 80%	「目標と計画」 前期 85.4% 後期 89.6% 「学期の振り返り」 前期 88.6%(後期 0.06%)	「目標と計画」「学期の振り返り」の平均入力率 1 年生：前期 78% 後期 64%	「目標と計画」の平均入力率 1 年生：前期 62% 後期 62%
	年度退学率 3%未満	令和 4 年度退学率 2.9%	令和 5 年度退学率 2.9%	令和 6 年度退学率 2.45%
	就業年限卒業率 80%以上	4 年間卒業率 76.5%	4 年間卒業率 72.3%	4 年間卒業率 78.3%
	学習支援センター（令和 4 年度設置）利用者数 3,000 人	利用者 5,390 名（延べ数）	利用者 3,838 名	利用者 5,031 名
	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）認定取得（令和 4 年度）	申請済（申請結果は 8 月頃通知の予定）	・全学部全学科にリテラシーレベル対応科目展開 ・リテラシーレベル認定制度認定（令和 5 年度）	・全学部全学科にリテラシーレベル対応科目展開 ・リテラシーレベル認定制度認定（令和 5 年度）
	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）認定取得（令和 5 年度）	工学部・情報工学部で令和 5 年度からプログラムがスタートした。令和 6 年度に申請・承認される見込み。	・工学部・情報工学部で令和 5 年度からプログラムを展開。令和 6 年度に申請・承認される見込み。	・応用基礎レベル認定制度認定 ・応用基礎レベル変更申請 ・社会環境学科検討完了
	大学教育推進機構（仮称）の設置（令和 5 年度）	教育開発推進機構を設置(令和 5 年度)	教育開発推進機構を設置(令和 5 年度)	教育開発推進機構を設置(令和 5 年度)
	学部、学科の DP 改訂（令和 6 年度）	令和 4 年 10 月に 3 回の教職員意見交換会および FORMS での意見聴取を行い、素案を策定した。その後の検討は新機構の教育イノベーション部門に引継ぎ、令和 6 年度からの新 DP 実施を目指す。	・全学 DP 見直し案の成案 ・令和 6 年度をカリキュラム改正等の準備期間として、新 DP 実施の時期を令和 7 年度に変更した。	センター・学科の DP/CP およびカリキュラムフローの整備完了

	教学運営会議の規程化(令和 6 年度)	教学運営会議を廃止し、新たな会議体を設置	令和 5 年度より「教学執行部会議」に改編、規程化について検討中	規程化については未実施
短大	数理・データサイエンス・AI 教育科目の展開	展開済み	展開済み	展開済み
	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)認定取得	申請書提出済み	認定取得	リテラシーレベル認定者(卒業生) (R5) 121 名、81.8% (R6) 118 名、83.1%
	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベルプラス)認定取得	申請書提出済み ※応用基礎レベルプラスも同時申請済み	「応用基礎レベル」の認定取得(短大での認定獲得は全国初)	応用基礎レベル認定者(卒業生) (R5) 17 名、11.5% (R6) 23 名、16.2%
高校	CP、GP に基づいた丁寧な教育の実践、学習者中心の教育活動	18 名の若手・中堅教員による WG にて、各ポリシーの素案が完成	各ポリシーが完成。スクールポリシーとして、スクールミッションと 3 つのポリシー(CP,AP,GP)を全教職員で共有。CP,GP を基に教育活動を実践。	CP、GP に基づく教育の実践を意識させるよう全教員が揃う職員会議や教員研修にて各コース主任から重ねて提示。
	単位制・通信制高校への転学者 0 人	単位制・通信制高校への転学者 24 名	単位制・通信制高校への転学者 26 名	単位制・通信制高校への転学者 21 名

【戦略Ⅲ】 特色ある研究によるプレゼンスアップ

学園のプレゼンスアップを図ることが最重要テーマである。そのために、研究の基盤となる大学院の魅力を高めること、その上で研究の高度化、産学連携の推進および研究環境の整備によって特色ある研究成果を生み出す。

担当事務局：大学院事務室、総合研究機構

網掛け：目標達成

区分	目標 (R4 年度～R8 年度)	R4 (R5 入試) 実績	R5 (R6 入試) 実績	R6 (R7 入試) 実績
大学院	内部進学率 15% (工学研究科)	11.0% (工学研究科)	9.8%、69 名	11.2%、89 名
	全専攻定員充足	システムマネジメント専攻(修士課程)、知能情報システム工学専攻(博士後期課程)、社会環境学専攻(修士課程)で定員未充足	M 電気工学専攻、情報通信工学専攻、システムマネジメント専攻、社会環境学専攻 D 物質生産システム工学専攻で未充足	M 情報通信工学専攻が未充足
	所属機関文献数 4,500 本以上 (Scopus 掲載文献数)	4,538 本 (2023 年 2 月 2 日現在)	4,849 本 (2024 年 5 月 7 日現在)	5,075 本 (2025 年 5 月 2 日現在)

	THE 世界大学ランキング (総合)九州・沖縄地区 10 位 以内 (教育リソース) 全国 100 位以 内	(総合)九州・沖縄地区 16 位 (教育リソース) 139 位	令和 5 年度は調査未実施	(総合)九州・沖縄地区 15 位 (教育リソース) 134 位
総合 研究 機 構	科学研究費の採択増加 採択件数 60 件以上 申請率 70%以上 採択金額 1.2 億円	採択件数 73 件 申請率 49.4% 採択金額 102,638 千円	採択件数 65 件 申請率 48.4% 採択金額 85,129 千円	採択件数 62 件 申請率 49.3 (65.5) % 採択金額 88,006 千円
	府省等による競争的研究費の獲得 JST、NEDO、AMED 等大型 研究事業への新規採択 1 件以 上	新規採択 4 件	新規採択 8 件 JST 新規採択 1 件 AMED 新規獲得 2 件 総務省、経済産業省、国土交通省、 海洋研究開発機構の研究事業新規採 択・獲得 5 件	新規採択 6 件 AMED (創薬ブースター) JST (大学発 SU 基金事業) JAXA (宇宙/フロントローディング) JSPS (人文・社会科学先導的研究) NEDO (航空機用超電導) 国交省 (共創的 MaaS 実証プロジェク ト)
	産学連携による受託研究、共同 研究の推進 社会実装 3 件	社会実装 2 件	研究成果の社会実装 2 件 分野横断型共同研究 4 件 GAP 資金の獲得 3 件 特許出願 12 件 特許登録 5 件	研究成果の社会実装 3 件 分野横断型共同研究 4 件 GAP 資金の獲得 3 件 特許出願・登録 出願 13、登録 10 件 共同・受託件数 50 件
	外部資金獲得 (科研費、競争 的研究費、受託・共同研究費 等) 総額 2.5 億円	外部資金獲得総額 250,108 千円	外部資金獲得総額 249,799 千円	外部資金獲得総額 219,113 千円

【戦略Ⅳ】キャリア教育と就職支援・進学支援による満足度向上

学生生徒の就職及び進学における満足度向上を図ることが最重要テーマである。そのために、キャリア教育と就職及び進学支援の充実を図ることによって、卒業時および就業後の学生満足度（学修したことが実社会で活きているのか）を高め、その結果を教育活動に反映させる。

担当事務局：就職課、短大事務室、高校事務室

網掛け：目標達成

区分	目標（R4 年度～R8 年度）	R4（R5 入試）実績	R5（R6 入試）実績	R6（R7 入試）実績
大学	実就職率 95%以上	実就職率 98.1%	実就職率 98.0%	実就職率 98.1%
	上場・大手中堅企業就職シェア 70%以上	上場・大手中堅企業への就職率 71.9% ※大手中堅企業は資本金 3 億円以上 または従業員数 300 名以上	上場・大手中堅企業への就職率 71.8% ※大手中堅企業は資本金 3 億円以上 または従業員数 300 名以上	上場・大手中堅企業への就職率 75.8% ※大手中堅企業は資本金 3 億円以上 または従業員数 300 名以上
	第一志望企業内定率 70%以上	第一志望の企業に決定 68.7% （第一志望ではないが、入りたいと考えていた企業に決定 27.8%⇒第一志望企業群への就職 96.5%）	第一志望の企業に決定 75.3% （第一志望ではないが、入りたいと考えていた企業に決定 22.3%⇒第一志望企業群への就職 97.6%）	第一志望の企業に決定 75.3% （第一志望ではないが、入りたいと考えていた企業に決定 22.8%⇒第一志望企業群への就職 98.1%）
	専門職就職シェア 60%以上	専門職就職シェア 46.5%	専門職就職シェア 52.8%	専門技術職就職シェア 50.1%
大学院	実就職率 95%以上	実就職率 92.5%	実就職率 95.3%	実就職率 97.5%
	上場・大手中堅企業就職シェア 90%以上	上場・大手中堅企業への就職率 90.3% （上場 53.1%、大手中堅 37.1%）	上場・大手中堅企業への就職率 88.5% （上場 47.5%、大手中堅 41.0%）	上場・大手中堅企業への就職率 93.5% （上場 51.9%、大手中堅 41.6%）
	専門職就職シェア 80%以上	専門職就職シェア 71.0%	専門職就職シェア 65.5%	専門技術職就職シェア 62.4%
短大	進路決定率 90%以上	進路決定率 94.1%	進路決定率 93.9%	進路決定率 90.8%
	（就職）情報関連企業・職種就職割合 50%以上	情報関連企業・職種就職割合 55.1%	情報関連企業・職種就職割合 51.4%	情報関連企業・職種就職割合 46.8%
	（編入）情報・工学部進学者割合 80%以上	情報・工学部進学者割合 79.7%	情報系学部学科進学者割合 81.3%	情報系学部学科進学者割合 80.3%
高校	（進学）国公立大 100 人（九大他難関国公立大 15 人含む）、福岡大 200 人、西南学院大 100、福岡工業大 200 人	（進学）国公立大 57 人（九大 5 人、大阪大 1 人）、福岡大 191 人、西南学院大 50 人、福岡工業大 1175 人	（進学）国公立大 88 人（九大 1 人、大阪大 1 人）、福岡大 206 人、西南学院大 64 人、福岡工業大 1,257 人	（進学）国公立大 102 人（九大 5 人、大阪大 2 人）、福岡大 202 人、西南学院大 56 人、福岡工業大 961 人
	（就職）就職試験 1 社目内定 100%	（就職）60 名中、1 社目内定 52 名、達成率 87%	（就職）45 名中、1 社目内定 43 名、達成率 96%	（就職）52 名中、1 社目内定 51 名、達成率 98%

【戦略Ⅴ】グローバル化と地域連携の推進

グローバル化においては、本学のすべての学生生徒がグローバルで多様な考えと共生力を育むことができる環境を学園全体で創出することを目指す。

地域連携においては、地域の産業活性化や個別のニーズにきめ細やかに対応できる高い実務能力を備えた人材を育成することを目指す。

担当事務局：国際連携室、社会連携センター

網掛け：目標達成

区分	目標（R4 年度～R8 年度）	R4（R5 入試）実績	R5（R6 入試）実績	R6（R7 入試）実績
グローバル	海外協定校の戦略的開拓： 50 校	22 校	38 校	42 校
	正規留学生比率（大学院・学部・短大）：5%（220 名）	0.9%(43 名)	0.8%（39 名）	1.6%（77 名）
	日本人学生派遣比率（大学院・学部・短大）：10%（440 名）	3.2%(149 名)	4.1%（191 名）	1.9%（94 名）
	有名企業への就職者のうち国際プログラム参加者：50%	7.7%(3 名)(2022 年 3 月卒業生) ※2023 年 3 月卒業分は不明(毎年 7 月頃、就職課へ照会)	12.2%（6 名）	未照会（7 月頃予定）
地域連携	地域貢献活動および自己啓発活動等課外活動への参加率（大学・大学院・短大）：10%以上、延べ 1,000 人以上	地域貢献活動および自己啓発活動等課外活動への参加率（大学・大学院・短大）：11.6%、延べ 1,429 人	地域貢献活動および自己啓発活動等課外活動への参加率（大学・大学院・短大）：9.6%、延べ 1,586 人	地域貢献活動および自己啓発活動等課外活動への参加率（大学・大学院・短大）：8.2%、延べ 1,983 人
	正課授業における PBL テーマ：15 分野以上/年	14 件（新規 6 件＋既存 8 件） ※修正（正課 PBL のみ） 10 件（新規 2 件＋既存 8 件）	11 件（新規 2 件＋既存 9 件）	11 件（新規 4 件＋既存 7 件）
	地域連携推進による学外関係者との交流：小中学生年間延べ 2,500 人以上、地域住民年間延べ 500 人	【小中学生：延べ 1,214 名】 ・FIT オープンカレッジ講座：79 名 ・サイエンスフェスタ(生徒)：267 名 参考：生徒 267 名＋保護者 251 名＝518 名 ・ものセン出前講座等：697 名 ・立花・相島小学校 ICT 体験授業：26 名	【小中学生：延べ 2,565 名】 ・FIT オープンカレッジ講座：1 名 ・サイエンスフェスタ(生徒)：548 名 ・ものセン出前講座等：1,839 名 （受け入れ講座含む） ・立花・岩戸北小 ICT 体験授業：33 名 ・新宮東小学校郊外学習：144 名 【地域住民：延べ 1,903 名】	【小中学生：延べ 2,818 名】 ・サイエンスフェスタ(生徒)：661 名 ・ものセン出前講座等：1,956 名 （受け入れ講座含む） ・立花・岩戸小 ICT 体験授業：68 名 ・新宮東小学校郊外学習：133 名 【地域住民：延べ 2,003 名】 ・FIT オープンカレッジ講座：1,246 名

		・新宮東小学校郊外学習：145 名 【地域住民：延べ 1,720 名】 ・FIT オープンカレッジ講座：1,436 名 ・サイエンスフェスタ(保護者)：251 名 ・古賀市大人向けプログラミング教室：15 名 ・篠栗町スマホ教室：18 名	・FIT オープンカレッジ講座：1,291 名 ・資格講座 9 名 ・サイエンスフェスタ(保護者)：517 名 ・ものセン出前講座等：54 名 (受け入れ講座含む) ・篠栗町スマホ教室：32 名	・資格講座 4 名 ・サイエンスフェスタ(保護者)：639 名 ・ものセン出前講座等：72 名 (受け入れ講座含む) ・千早公民館スマホ教室：42 名
--	--	---	--	---

【戦略Ⅵ】財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化

財政においては、教育・研究活動の活性化・高度化への積極的な財政的対応とともに将来に対する資金の備蓄を進める。そのために、基幹収入を安定的に確保する素地の形成と確立を引き続き目指していく。組織においては、2040 年の学園像を見据えた強しなやかな組織・働きがいのある職場の実現を目指す。そのために、People Management による組織力強化と教職員の満足度向上を見据えた職場環境づくりに取り組む。

担当事務局：総務人事課、経理課、経営企画課

網掛け：目標達成

区分	目標（R4 年度～R8 年度）	R4（R5 入試）実績	R5（R6 入試）実績	
法人	教育・研究活動の活性化・高度化への積極的な財政的対応	令和 5 年度の予算編成（令和 4 年 10 月～）にあたり、環境変化に対応する政策的予算配分として、MP・AP の推進を主目的とする特別予算に加えて、教育・研究活動の活性化・高度化への積極的な財政的対応を図るため、10 項目の重点領域・留意点を定めた。 主なものは次のとおりである。 ①教学特別推進予算の継続、②学習支援センター予算の新設、③新学科設置準備予算の確保、④文教政策対応予算（教育未来創造会議提言、新たな私学振興政策への対応を目的）、⑤研究報奨制度予算の継続等	令和 6 年度予算編成（令和 5 年 10 月～検討開始）では、環境変化に対応する政策的予算配分として、MP・AP の推進を主目的とする特別予算に加えて教育・研究活動の活性化・高度化への積極的な財政的対応を図るため、5 項目の重点領域を、次のとおり定めた。 ①国の政策による新たな支援事業への対応、②半導体関連人材・DX 人材・グリーン人材等新たな人材育成ニーズへの対応のうち、国等の支援が得られる取組、③学部・学科改組等の組織的検討費用、④R4 教学新体制の趣旨に適用取組（学長裁量予算や教育開発推進特別予算等）、⑤従前の文教政策対応予算の継続等	教育・研究活動の活性化・高度化への積極的な財政的対応として、令和 7 年度予算編成では、以下の 3 項目を重点領域として定めた。①新たなキャンパス整備構想（先進的なキャンパスの創造）に係る整備費用、②国の政策による新たな支援事業への対応（過年度継続事業含む）、③従前の文教政策対応予算の継続等である。 また、諸物価上昇に対応し、経常的費用（教学一般予算）の予算単価改定（約 4%の予算増額）、学会出張旅費等の見直しを行い、教育・研究活動の安定性を確保している。

将来の学部・学科の展開に対応する資金の備蓄（10年間でプラス50億円 累積150億円）	令和4年度の高校施設・設備整備計画関連投資をもって、臨時的大型投資を完了した（令和4年度は、大学の情報環境整備、高校の教育施設・設備整備に約16億円を投下）。今後は、「将来に向けた資金備蓄」のフェーズに入るので、その初年度として令和5年度予算に「約8億円の資金増」を組み込んでいる。	令和6年度予算編成では、当年度の設備投資計画を高校の既存設備の小規模改修にとどめ、次期の大学施設の補完的整備の検討を行いつつ、資金備蓄に注力することとした。 なお、令和5年度は、資金備蓄フェーズ初年度として、約8億円の資金増を達成した。	将来への資金備蓄について、令和7年度予算編成では、改組等「先進的キャンパス創造」への対応は、国の支援事業（3000億円基金）の活用や既存遊休スペースの有効活用で対応する。既存の施設・設備整備も補完的整備に限定し、資金投下を抑制する。 なお、令和6年度は、約3億円の資金増（学納金の口座振替化に伴う前受金の減少を除く）となった。これは、休・退学者抑制等の学納金収入安定化施策の進展や、補助金収入拡大等によるもので、これらの施策を継続する。
低学費政策（3設置校）の堅持、学費の合理的還元	3設置校ともに相対的低学費を維持している。学費の合理的還元については、3設置校の財政的自立（それぞれが所定の黒字計上）、学業・特技特待・経済事由等による学費減免等を従前の範囲内に抑えるとともに当該経費予算の拡大抑制により、一定の合理性を継続している。	令和6年度学費改定以降も、3設置校ともに相対的低学費を維持している。学費の合理的還元については、3設置校の財政的自立として、各校が所定の黒字を計上（学校間の安易な資金融通を防止）し、教育活動収入の、ほぼ全額を教育活動支出に充てている。その積極的資金投下を資金効率的に行うため、PDCAによる予算管理（審査会・成果発表会開催等）によって、合理的還元を向上させている。	低学費政策について、学納金単価は、この10年で3度の改定を行ってもなお、「相対的低学費」を維持している。 学費の合理的還元について、3設置校が所定黒字の確保（令和6年度も同様見通し）とPDCA予算管理を徹底したうえで、教育・研究、学生支援等への積極的資金投下を継続している。おって、「学費の公正・公平還元」の考え方に基づき、「独自奨学金制度」の在り方見直し、縮小の是非について検討する。
資金運用の安全性重視等保守的財政運営	資金運用規定に沿った資金運用（国債、公債を中心とした運用）を継続している。	資金運用規程に沿った資金運用（国債、公債を中心とした運用）を継続している。その収益性は、県下私大の中でトップクラスである。	資金運用について、資金運用規程に沿って、安全性重視の資金運用（国債、公債中心の運用）を継続している。 なお、令和6年度も約1.5億円の運用収益（利息）を確保している。
Society5.0の社会を生き抜く、強靱かつ柔軟な組織・ひと作り	「部門別中期運営計画」に記載、もしくは関連する事項について、実施項目は以下の通り。 ①非常勤教員の無期転換対応 ②人事評価制度の定着 ③特定職員制度スタート ④新人事制度導入（専任職員）	「部門別中期運営計画」に記載、もしくは関連する事項について、実施項目は以下の通り。 ①学長新体制、事務組織改編にあたっての各種対応 ②専任職員新人事制度の導入・運用（R5.4～）	「部門別中期運営計画」に記載、もしくは関連する事項について、実施項目は以下の通り。 ①改正私学法施行対応（R7.4～） ・寄附行為変更（R7.4） ・内部統制基本方針策定（R6.10） ・法改正後の理事会・評議員会運営

		⑤事務組織業務分析 ⑥外部専門家活用 ⑦私学法改正対応（ガバナンス改革） ⑧人件費安定化,etc.	③特定職員制度、人事評価制度の定着 ④臨時職員・嘱託職員の無期転換対応（就業規則の整備）（R6.4） ⑤学科事務雇用継続（含.無期転換）対応 ⑥改正私学法対応（R5.11評議員会での方向性説明、寄附行為改正案作成）	面の精査、運用規程整備（R7.4） ② 高校常勤講師人事制度改定（R7.4） ③職員採用プロセスの見直し、職員採用HPの作成・公表
	教職員満足度の高い働きがいのある環境作り	部門別中期運営計画記載、もしくは関連する事項について、実施項目は以下の通り。 ①職員意識実態調査に基づく、種々の施策実施 ②ハラスメント相談窓口の設置、個別事案対応（積極的な情報公開） ③学生向けハラスメント講話の実施 ④教員裁量労働制の再適用（教学幹部・学科ヒアリングを実施） ⑤教職員のコミットメントを評価する仕組み（クローボ、PI人件費等の運用支援） ⑥キャリアプランに応える制度作り（R5年度APとして推進中）	「部門別中期運営計画」に記載、もしくは関連する事項について、実施項目は以下の通り。 ①職員人事・人材育成方針の策定・公表（R6.2） ②職員海外研修の実施（R5.8） ③その他、教職員向け各種研修実施 ④公益通報・ハラスメント相談に関する外部窓口の設置（R6.4） ⑤大学・短大教員裁量労働制再適用に伴う就業規則の整備（R6.4） ⑥裁量労働制適用者の同意取得（R6.1） ⑦大学・短大教員の勤怠システム活用（年休申請の電子化）（R6.4） ⑧学生向けハラスメント講話の実施 事務職員通年オフィスカジュアル導入推進	「部門別中期運営計画」に記載、もしくは関連する事項について、実施項目は以下の通り。 ①出産・育児・介護等の休業・休職に関する規程・プロセス等の整備（R7.4） ②職員海外研修の実施（R6.8） ③その他、教職員向け各種研修実施 ④ハラスメント相談窓口の運用・個別事案対応 ⑤公益通報・ハラスメント相談に関する外部窓口の運用 ⑥職員人材マネジメントシステムの導入（R6.10） ⑦障がい者雇用の推進
全学	アクションプログラム（AP）達成率 80%以上	大学・大学院・総合研究機構 80.6%（95AP/116AP） 短大 86.7（26AP/30AP） 高校 64.0%（16AP/25AP） 事務局 82.5%（80AP/97AP） 全体 80.9%（217AP/268AP）	大学・大学院・総合研究機構 75.9%（104AP/137AP） 短大 85.2%（23AP/27AP） 高校 68.4%（13AP/19AP） 事務局 80.7%（92AP/114AP） 全体 78.1%（232AP/297AP）	大学・大学院・総合研究機構 87.0%（127AP/146AP） 短大 82.1%（23AP/28AP） 高校 74.1%（20AP/27AP） 事務局 94.8%（92AP/97AP） 全体 87.9%（262AP/298AP）

1) 募集活動別動員数の推移

	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R7/R6
高校訪問（延べ訪問数）	1,230	1,298	1,655	1,651	1,579	95.6%
DM（保護者、高校生宛）通数	85,808	53,200	53,061	59,627	117,696	197.4%
メールマガジン延べ配信数	49,749	50,205	78,884	72,600	51,517	71.0%
総接触者数	24,822	22,842	22,461	21,534	24,620	114.3%
H Pセッション数	1,082,623	919,792	927,653	1,030,163	1,070,356	103.9%
S N S フォロワー数	1,612	1,701	3,211	3,826	4,760	124.4%
YouTube入試動画再生回数	—	—	—	2,688	8,088	300.9%
パブリシティ掲載数	334	335	299	343	308	89.8%
高校内進学説明会実施回数	70	65	93	88	81	92.0%
模擬講義／分野別ガイダンス実施回数	17	36	55	62	72	116.1%
進学相談会（会場数）	31	34	31	29	28	96.6%
進学相談会（着席数）	455	479	407	473	426	90.1%
団体見学（校数）	13	11	28	36	43	119.4%
団体見学（人数）	282	563	1,120	1,460	2,141	146.6%

2) 学科ごとの延べ志願者数の推移

	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R7/R6
工学部	4,740	4,563	4,813	3,817	3,983	104.3%
電子情報工学科	1,330	1,243	1,362	1,085	1,144	105.4%
生命環境化学科	993	982	1,051	844	943	111.7%
知能機械工学科	1,295	1,198	1,211	990	983	99.3%
電気工学科	1,122	1,140	1,189	898	913	101.7%
情報工学部	5,627	5,284	5,472	4,485	4,570	101.9%
情報工学科	1,969	1,797	1,884	1,550	1,592	102.7%
情報通信工学科	1,258	1,100	1,222	903	992	109.9%
情報システム工学科	1,543	1,557	1,495	1,138	1,181	103.8%
情報マネジメント学科 *1	857	830	871	894	805	90.0%
社会環境学部社会環境学科	978	899	970	970	937	96.6%
合 計	11,345	10,746	11,255	9,272	9,490	102.4%

*1 R5年度までシステムマネジメント学科

3) 入学志願者数の推移（入試種別）

	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R7/R6
総合型選抜計	71	88	81	60	152	253.3%
スペシャルスキル	44	57	53	44	134	304.5%
総合型選抜【後期】	27	31	28	16	18	112.5%
学校推薦型選抜計	706	627	638	601	605	100.7%
専願制	366	317	306	297	295	99.3%
併願制	340	310	332	304	310	102.0%
一般選抜	10,568	10,031	10,536	8,611	8,733	101.4%
3教科型	2,523	2,406	2,222	1,992	1,863	93.5%
共通テスト利用（社会環境学部）	93	72	92	81	79	97.5%
共通テスト利用【前期（全学部）】	5,229	5,010	5,204	4,547	4,893	107.6%
共通テスト利用【中期（〃）】	2,208	2,156	2,594	1,658	1,559	94.0%
共通テスト利用【後期（〃）】	499	377	418	320	322	100.6%
留学生	16	10	6	13	17	130.8%
志願者合計	11,345	10,746	11,255	9,272	9,490	102.4%

4) 入学志願者・入学者数の推移（出身県別）

①入学志願者

	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R7/R6
全体	10,746	11,255	9,272	9,490	102.4%
福岡県	8,193	8,723	6,812	6,819	100.1%
佐賀県	475	537	477	596	124.9%
長崎県	498	398	392	376	95.9%
熊本県	245	267	147	167	113.6%
大分県	289	293	333	372	111.7%
宮崎県	230	289	253	253	100.0%
鹿児島県	278	246	280	364	130.0%
沖縄県	91	71	69	52	75.4%
九州地区 計	10,299	10,824	8,763	8,999	102.7%
山口県	227	243	247	234	94.7%
中国地区 他	91	77	52	60	115.4%
四国地区	29	17	41	32	78.0%
その他	100	94	169	165	97.6%

②入学者

	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	R7年度入試	R7/R6
全体	1,000	1,038	1,069	1,128	105.5%
福岡県	702	725	726	780	107.4%
佐賀県	55	58	70	65	92.9%
長崎県	51	51	53	60	113.2%
熊本県	30	31	23	32	139.1%
大分県	35	40	36	38	105.6%
宮崎県	29	38	35	41	117.1%
鹿児島県	42	42	44	48	109.1%
沖縄県	9	8	11	9	81.8%
九州地区 計	953	993	998	1,073	107.5%
山口県	20	26	29	22	75.9%
中国地区 他	9	8	12	5	41.7%
四国地区	4	1	9	6	66.7%
その他	14	10	21	22	104.8%

5) 女子学生の志願者・入学者の状況

	R4年度入試			R5年度入試			R6年度入試			R7年度入試			女子 入学者 R7/R6
	志願者	入学者		志願者	入学者		志願者	入学者		志願者	入学者		
	女子 人数	女子 人数	割合	女子 人数	女子 人数	割合	女子 人数	女子 人数	割合	女子 人数	女子 人数	割合	
工学部	678	47	6.9%	964	48	5.0%	623	63	10.1%	754	69	9.2%	109.5%
電子情報工学科	130	4	3.1%	227	6	2.6%	133	7	5.3%	137	3	2.2%	42.9%
生命環境化学科	289	35	12.1%	350	36	10.3%	265	46	17.4%	377	52	13.8%	113.0%
知能機械工学科	134	3	2.2%	202	2	1.0%	124	5	4.0%	137	13	9.5%	260.0%
電気工学科	125	5	4.0%	185	4	2.2%	101	5	5.0%	103	1	1.0%	20.0%
情報工学部	893	67	7.5%	1,080	46	4.3%	765	56	7.3%	863	79	9.2%	141.1%
情報工学科	261	20	7.7%	299	16	5.4%	217	21	9.7%	248	26	10.5%	123.8%
情報通信工学科	186	13	7.0%	252	11	4.4%	168	15	8.9%	188	22	11.7%	146.7%
情報システム工学科	248	15	6.0%	285	6	2.1%	184	4	2.2%	216	15	6.9%	375.0%
情報マネジメント学科 *1	198	19	9.6%	244	13	5.3%	196	16	8.2%	211	16	7.6%	100.0%
社会環境学部社会環境学科	273	35	12.8%	332	38	11.4%	314	40	12.7%	306	47	15.4%	117.5%
総合計	1,844	149	8.1%	2,376	132	5.6%	1,702	159	9.3%	1,923	195	10.1%	122.6%

*1 R5年度までシステムマネジメント学科

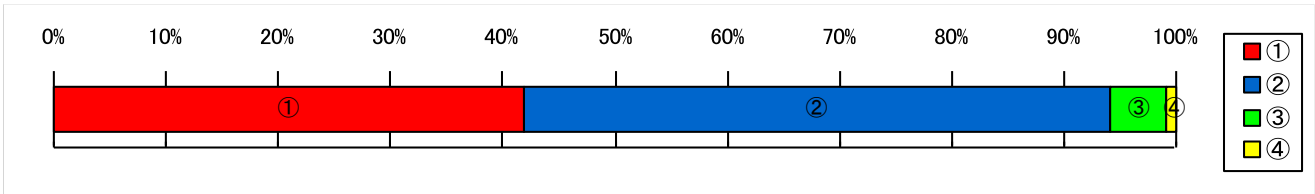
6) 令和6年度授業アンケート集計結果
前期 全学（総合計）

1. 実施概要

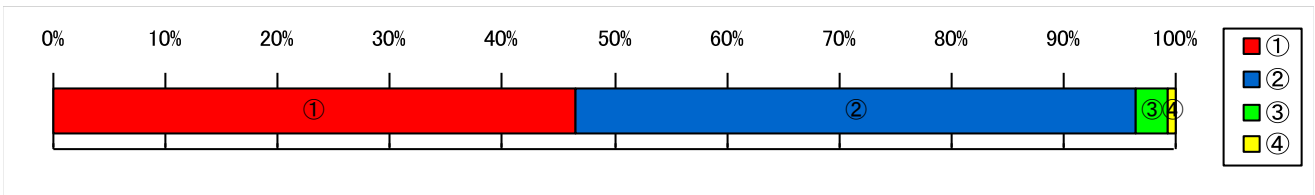
- (1) 実施日 R6/07/03(水) ～ R6/07/19(金)
(2) 対象授業 R6年度前期 全学（総合計）
開講年期： R6年度前期
(3) 回答人数 20,146人 履修者：37,293人 回答率：54.02%

2. 集計結果

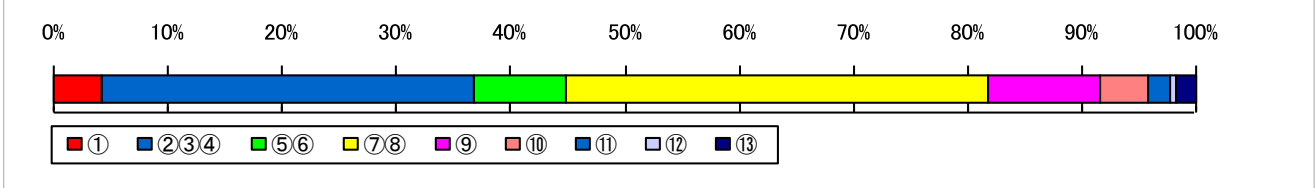
1. この授業を受講するにあたって、シラバスの内容を確認しましたか。
①十分に確認した(8,415人 41.7%) ②ある程度確認した(10,516人 52.1%) ③あまり確認していない(1,027人 5%)
④全く確認していない(188人 0.9%)



2. この授業において自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができましたか。
①充分に取り組んだ(9,363人 46.4%) ②ある程度取り組んだ(10,064人 49.9%) ③あまり取り組んでいない(570人 2.8%)
④全く取り組んでいない(149人 0.7%)



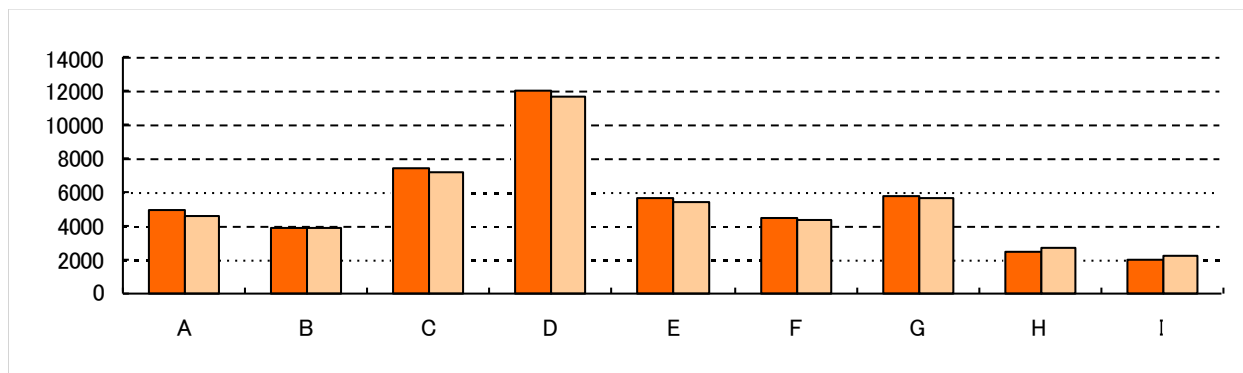
3. この授業科目における授業時間以外での学習時間（予習・復習、課題、自主学习等※）の合計は、1週間あたりどのぐらいでしたか
①0分(854人 4.2%) ②10分(960人 4.7%) ③20分(1,328人 6.5%) ④30分(4,283人 21.2%) ⑤40分(1,015人 5%)
⑥50分(623人 3%) ⑦1時間(5,482人 27.2%) ⑧1時間30分(1,904人 9.4%) ⑨2時間(1,971人 9.7%) ⑩3時間(867人 4.3%)
⑪4時間(366人 1.8%) ⑫5時間(139人 0.6%) ⑬6時間以上(354人 1.7%)



平均学習時間： 68分

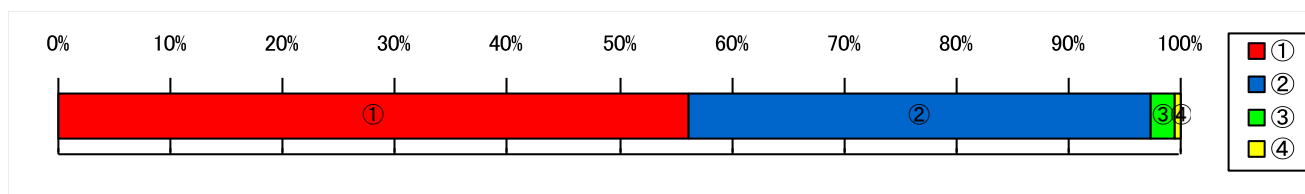
4. この授業で成長させたいと考えていた『力』は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。
5. この授業を通じて実際に伸ばすことができた実感している『力』は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。

No	選択項目	問4	問5
A	多面的理解：地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	4,883	4,647
B	社会的責任：技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、社会に対して負う責任の理解	3,867	3,861
C	数量的スキル・リテラシー：数学・自然科学（人文社会科学）の知識と応用能力	7,393	7,131
D	専門知識：当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力	11,955	11,661
E	課題解決力：科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するデザイン能力	5,673	5,468
F	コミュニケーション：論理的な記述、口頭発表、討議等のコミュニケーション能力	4,464	4,362
G	主体性：自主的、継続的に学習する能力	5,710	5,638
H	実行性：与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	2,526	2,660
I	協働性：チームで仕事をするための能力	2,039	2,193



6. この授業の内容は全体として意義あるものでしたか。

- ① 充分意義があった (11,287人 56%) ② ある程度意義があった (8,290人 41.1%) ③ あまり意義がなかった (449人 2.2%)
 ④ 全く意義がなかった (120人 0.5%)



後期 全学（総合計）

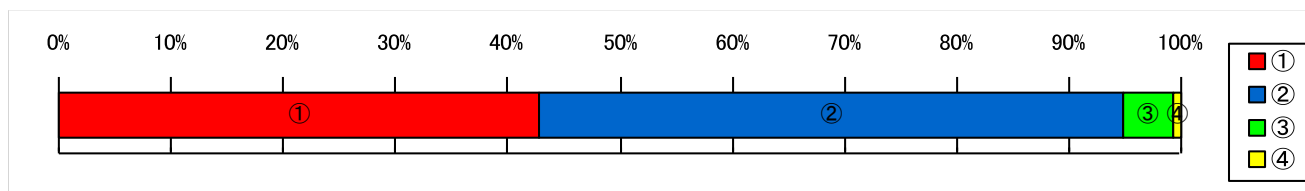
1. 実施概要

- (1) 実施日 R6/12/20(金) ～ R7/01/16(木)
 (2) 対象授業 R6年度後期 全学（総合計）
 開講年期： R6年度後期
 (3) 回答人数 12,368人 履修者：33,105人 回答率：37.36%

2. 集計結果

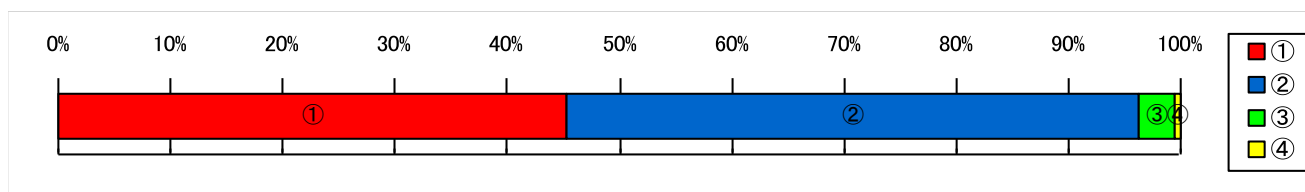
1. この授業を受講するにあたって、シラバスの内容を確認しましたか。

- ① 十分に確認した (5,294人 42.8%) ② ある程度確認した (6,423人 51.9%) ③ あまり確認していない (563人 4.5%) ④ 全く確認していない (88人 0.7%)

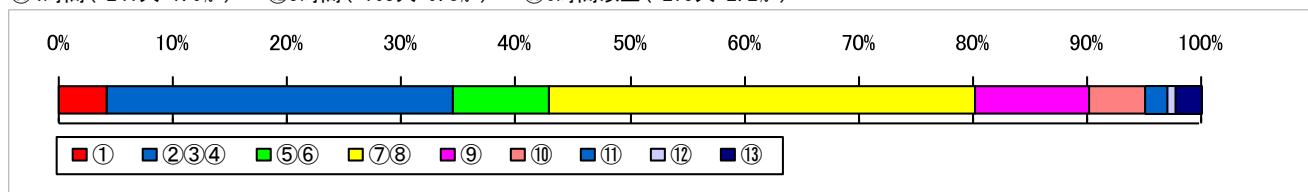


2. この授業において自主的かつ意欲をもって学習に取り組むことができましたか。

- ① 十分に取り組んだ (5,593人 45.2%) ② ある程度取り組んだ (6,293人 50.8%) ③ あまり取り組んでいない (396人 3.2%)
 ④ 全く取り組んでいない (86人 0.6%)



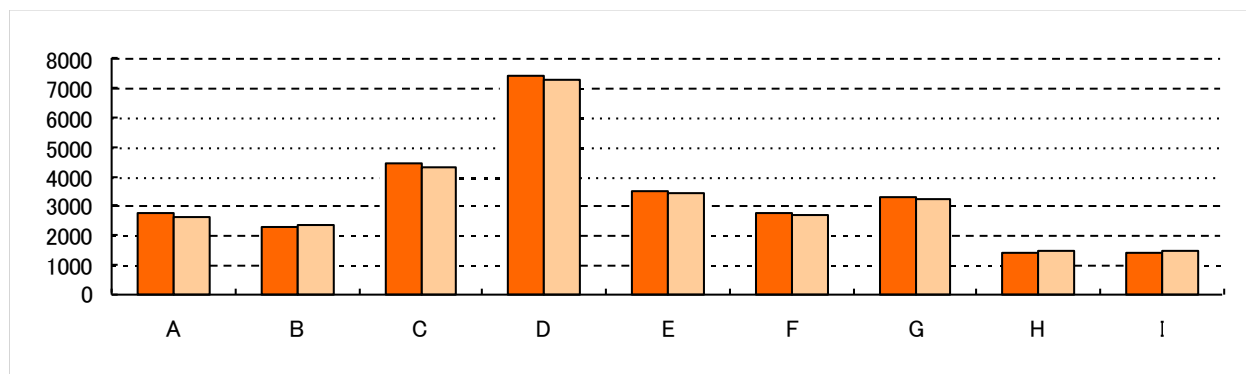
3. この授業科目における授業時間以外での学習時間（予習・復習、課題、自主学習等※）の合計は、1週間あたりどのくらいでしたか
 ①0分（515人 4.1%） ②10分（472人 3.8%） ③20分（680人 5.4%） ④30分（2,603人 21%） ⑤40分（622人 5%） ⑥50分（424人 3.4%） ⑦1時間（3,473人 28%） ⑧1時間30分（1,125人 9%） ⑨2時間（1,241人 10%） ⑩3時間（594人 4.8%） ⑪4時間（241人 1.9%） ⑫5時間（103人 0.8%） ⑬6時間以上（275人 2.2%）



平均学習時間： 72分

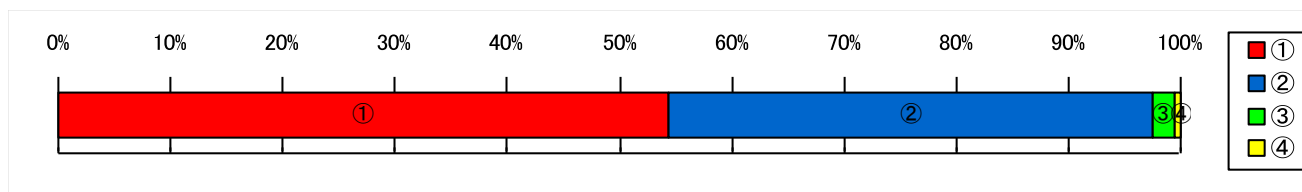
4. この授業で成長させたいと考えていた『力』は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。 5. この授業を通じて実際に伸ばすことができた実感している『力』は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。

No	選択項目	問4	問5
A	多面的理解：地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養	2,743	2,649
B	社会的責任：技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、社会に対して負う責任の理解	2,275	2,350
C	数量的スキル・リテラシー：数学・自然科学（人文社会科学）の知識と応用能力	4,463	4,275
D	専門知識：当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力	7,403	7,244
E	課題解決力：科学技術、情報及び知識を活用して社会の要求を解決するデザイン能力	3,508	3,450
F	コミュニケーション：論理的な記述、口頭発表、討議等のコミュニケーション能力	2,766	2,722
G	主体性：自主的、継続的に学習する能力	3,274	3,226
H	実行性：与えられた制約の中で計画的に仕事を進め、まとめる能力	1,433	1,507
I	協働性：チームで仕事をするための能力	1,382	1,460



6. この授業の内容は全体として意義あるものでしたか。

- ①充分意義があった（6,718人 54.3%） ②ある程度意義があった（5,327人 43%） ③あまり意義がなかった（256人 2%） ④全く意義がなかった（67人 0.5%）



7) 教育開発推進室の活動実績

①令和6年度の主な活動

活動名	活動内容（開催時期、活動の目的等）	
教員表彰制度「FIT教育賞」	R6年度～	「グッドプラクティス部門」、「グッドカリキュラム部門」、「実践力育成部門」の3つの部門を設け、全学的な表彰制度「FIT教育賞」をスタート
新任教員FD研修会	R6. 4. 4 R6. 8. 27	4月に新任教員FD研修会、8月には「新任教員フォローアップ研修会」を開催。新任教員が本学の教育の特色を理解した上で、本学教員としての心構えを持ち、教育に取り組むことを目的に開催
ミドルマネジメント研修	R6. 9. 18	学長を支えるミドル教職員（副学長、研究科長、学部長、教務部長、学科長、センター長、事務局等）を対象に、教学マネジメント体制に必要なスキルを身に付け、リーダーシップの意識を高めることを目的に開催
教学マネジメント委員意見交換会	R6. 10. 23	評価・推進部会構成員を対象とし、所属組織を越えて、本学に必要な教育改善について意見交換を行うことにより、課題に対する認識共有を図り、効果的なFD活動につなげることを目的に開催
教育業績賞報告会	R6. 6. 19	情報マネジメント学科の傳 靖准教授が、グローバル教育や学生の海外派遣プログラムの構築・運用について発表。これらの取組が評価され、教育業績賞を受賞
	R6. 7. 24	情報工学科の馬場 謙介教授が、プロジェクト型学習(PBL)の推進やiTechLABを活用した学生の自主的な学びの環境提供について発表。これらの取組が評価され、教育業績賞を受賞
学部表彰	R7. 4. 3	学業優秀者や学部が推奨する資格取得者を表彰する制度。R6年度は、「優秀学生表彰」198名200件、「資格取得表彰」177名204件を表彰
FIT-SDG s プロジェクト	R6. 6. 28	防災プランナー「しほママ」こと柳原 志保氏を招き、体験型講演会「SDGs×防災 女性目線！みんなに優しい忘災とは？」を開催。学生23名、教職員18名の計41名が参加
アントレプレナーシップ教育	R6. 10. 27	PARKSアントレプレナーシップ人材育成プログラム「新聞コミュニケーション・コンテスト」を開催。本学学生7名、小中学生（西日本新聞こども記者経験者）10名が参加

②FD Caféの実施

回数	開催時期	開催テーマ	講演者（ファシリテーター）
第34回	R6. 3. 11	大学におけるプログラミング教育について考える	北九州市立大学 山崎 進准教授
第35回	R6. 9. 20	やってみようと思ったきっかけを共有しよう！	本学教養力育成センター 原田 寛子教授
第36回	R6. 11. 8	学生指導に必要なコーチング技能	芝浦工業大学 浜野 学教授

8) 令和6年度奨学費・対象人数の状況

① 本学独自奨学金

(単位：千円)

奨学の趣旨	大学	短大	高校	合計
学業奨励	107,055 (206名)	5,530 (14名)	47,294 (168名)	159,880 (388名)
課外活動奨励	69,931 (119名)		20,805 (109名)	90,736 (228名)
経済的事由対応	7,817 (34名)	1,237 (6名)		9,055 (40名)
経済的事由 (留学生)	4,947 (16名)	1,005 (3名)		5,952 (19名)
国際交流支援	7,561 (24名)			7,561 (24名)
その他		6,290 (54名)	4,770 (22名)	11,060 (76名)
合計	197,312 (399名)	14,062 (77名)	72,870 (299名)	284,245 (775名)

② 修学支援費<国の高等教育修学支援新制度 (5年目)>

R6年度授業料等減免採用実績

学部：760名/367,446千円 (614名/320,335千円)

短大：76名/33,556千円 (68名/33,281千円)

※人数には支援対象外休停止中の学生含む () 内は前年度実績

R6年度は支援拡大 (第Ⅳ区分：多子世帯、理工農系) により修学支援費増加

R7年度は多子世帯の所得制限撤廃により、更なる増額が見込まれる

9) 学習支援センター (FIT-inサポート*) 利用状況

学科	年度	令和5年度		令和6年度		増加率 R6年度/R5年度
		合計(回)	全体比	合計(回)	全体比	
電子情報工学科		364	9%	482	10%	132.4%
生命環境化学科		323	8%	398	8%	123.2%
知能機械工学科		64	2%	25	0%	39.1%
電気工学科		177	5%	115	2%	65.0%
情報工学科		344	9%	468	9%	136.0%
情報通信工学科		790	21%	917	18%	116.1%
情報システム工学科		1,370	36%	2,197	44%	160.4%
システムマネジメント学科/情報マネジメント学科		81	2%	136	3%	167.9%
社会環境学科		323	8%	282	6%	87.3%
科目等履修生ほか		2	0%	11	0%	550.0%
合計		3,838	100%	5,031	100%	131.1%

* 全学生を対象に、正課授業の単位取得を目的として、教員や学科の先輩に質問や相談ができる取組

10) 留年判定者数一覧

在籍＝在籍者数（年度当初）、留年＝留年判定者数

学部	学科	学年	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度		
			在籍	留年	率	在籍	留年	率	在籍	留年	率	在籍	留年	率	在籍	留年	率
工学部	電子情報	1年	101	13	12.9%	105	10	9.5%	104	14	13.5%	117	22	18.8%	116	15	12.9%
		2年	109	16	14.7%	97	9	9.3%	99	13	13.1%	97	23	23.7%	112	18	16.1%
		3年	138	35	25.4%	124	27	21.8%	108	30	27.8%	112	22	19.6%	90	18	20.0%
		4年	84	10	11.9%	107	6	5.6%	97	2	2.1%	80	2	2.5%	90	0	0.0%
		合計	432	74	17.1%	433	52	12.0%	408	59	14.5%	406	69	17.0%	408	51	12.5%
	生命環境	1年	105	16	15.2%	125	22	17.6%	113	13	11.5%	107	15	14.0%	126	10	7.9%
		2年	108	6	5.6%	89	7	7.9%	106	9	8.5%	101	9	8.9%	99	6	6.1%
		3年	103	11	10.7%	105	11	10.5%	91	4	4.4%	100	6	6.0%	97	7	7.2%
		4年	83	0	0.0%	91	1	1.1%	92	2	2.2%	88	2	2.3%	95	3	3.2%
		合計	399	33	8.3%	410	41	10.0%	402	28	7.0%	396	32	8.1%	417	26	6.2%
	知能機械	1年	136	19	14.0%	146	11	7.5%	133	11	8.3%	135	11	8.1%	122	12	9.8%
		2年	135	19	14.1%	126	10	7.9%	140	12	8.6%	131	12	9.2%	132	10	7.6%
		3年	120	14	11.7%	125	16	12.8%	126	19	15.1%	139	18	12.9%	134	12	9.0%
		4年	121	1	0.8%	106	4	3.8%	111	1	0.9%	105	2	1.9%	122	9	7.4%
		合計	512	53	10.4%	503	41	8.2%	510	43	8.4%	510	43	8.4%	510	43	8.4%
	電気	1年	117	34	29.1%	151	17	11.3%	105	18	17.1%	114	25	21.9%	121	26	21.5%
		2年	100	18	18.0%	90	20	22.2%	147	28	19.0%	103	16	15.5%	99	15	15.2%
		3年	98	14	14.3%	90	13	14.4%	79	16	20.3%	130	15	11.5%	95	15	15.8%
		4年	81	9	11.1%	89	7	7.9%	84	0	0.0%	62	5	8.1%	118	9	7.6%
		合計	396	75	18.9%	420	57	13.6%	415	62	14.9%	409	61	14.9%	433	65	15.0%
	小 計	1年	459	82	17.9%	527	60	11.4%	455	56	12.3%	473	73	15.4%	485	63	13.0%
		2年	452	59	13.1%	402	46	11.4%	492	62	12.6%	432	60	13.9%	442	49	11.1%
		3年	459	74	16.1%	444	67	15.1%	404	69	17.1%	481	61	12.7%	416	52	12.5%
		4年	369	20	5.4%	393	18	4.6%	384	5	1.3%	335	11	3.3%	425	21	4.9%
		合計	1,739	235	13.5%	1,766	191	10.8%	1,735	192	11.1%	1,721	205	11.9%	1,768	185	10.5%
情報工学部	情報	1年	157	1	0.6%	134	1	0.7%	147	2	1.4%	145	0	0.0%	150	1	0.7%
		2年	149	13	8.7%	165	18	10.9%	142	10	7.0%	153	14	9.2%	154	11	7.1%
		3年	162	8	4.9%	151	9	6.0%	157	11	7.0%	147	16	10.9%	157	6	3.8%
		4年	159	7	4.4%	160	6	3.8%	147	5	3.4%	147	2	1.4%	131	4	3.1%
		合計	627	29	4.6%	610	34	5.6%	593	28	4.7%	592	32	5.4%	592	22	3.7%
	情報通信	1年	105	1	1.0%	107	0	0.0%	94	2	2.1%	102	2	2.0%	104	1	1.0%
		2年	105	12	11.4%	114	21	18.4%	126	16	12.7%	104	18	17.3%	115	15	13.0%
		3年	100	12	12.0%	107	10	9.3%	100	14	14.0%	123	10	8.1%	89	9	10.1%
		4年	93	9	9.7%	92	7	7.6%	99	9	9.1%	91	3	3.3%	115	1	0.9%
		合計	403	34	8.4%	420	38	9.0%	419	41	9.8%	420	33	7.9%	423	26	6.1%
	情報システム	1年	94	2	2.1%	95	1	1.1%	105	2	1.9%	104	2	1.9%	102	3	2.9%
		2年	102	24	23.5%	110	21	19.1%	112	16	14.3%	116	8	6.9%	105	8	7.6%
		3年	123	24	19.5%	100	14	14.0%	96	4	4.2%	100	9	9.0%	110	5	4.5%
		4年	95	4	4.2%	100	4	4.0%	89	3	3.4%	93	4	4.3%	93	6	6.5%
		合計	414	54	13.0%	405	40	9.9%	402	25	6.2%	413	23	5.6%	410	22	5.4%
	システムマネジメント／情報マネジメント	1年	71	1	1.4%	71	1	1.4%	76	0	0.0%	74	0	0.0%	103	1	1.0%
		2年	77	10	13.0%	80	18	22.5%	84	14	16.7%	85	10	11.8%	84	12	14.3%
		3年	73	4	5.5%	70	6	8.6%	69	5	7.2%	73	7	9.6%	80	0	0.0%
		4年	77	12	15.6%	73	8	11.0%	72	6	8.3%	68	6	8.8%	70	7	10.0%
		合計	298	27	9.1%	294	33	11.2%	301	25	8.3%	300	23	7.7%	337	20	5.9%
	小 計	1年	427	5	1.2%	407	3	0.7%	422	6	1.4%	425	4	0.9%	459	6	1.3%
		2年	433	59	13.6%	469	78	16.6%	464	56	12.1%	458	50	10.9%	458	46	10.0%
		3年	458	48	10.5%	428	39	9.1%	422	34	8.1%	443	42	9.5%	436	20	4.6%
		4年	424	32	7.5%	425	25	5.9%	407	23	5.7%	399	15	3.8%	409	18	4.4%
		合計	1,742	144	8.3%	1,729	145	8.4%	1,715	119	6.9%	1,725	111	6.4%	1,762	90	5.1%
社会環境学部	社会環境	1年	180	23	12.8%	197	14	7.1%	177	14	7.9%	196	16	8.2%	197	20	10.2%
		2年	199	17	8.5%	165	14	8.5%	185	9	4.9%	168	9	5.4%	180	6	3.3%
		3年	172	10	5.8%	193	8	4.1%	162	5	3.1%	182	8	4.4%	169	14	8.3%
		4年	190	17	8.9%	175	7	4.0%	192	6	3.1%	162	4	2.5%	176	6	3.4%
		合計	741	67	9.0%	730	43	5.9%	716	34	4.7%	708	37	5.2%	722	46	6.4%
	合 計	1年	1,066	110	10.3%	1,131	77	6.8%	1,054	76	7.2%	1,094	93	8.5%	1,141	89	7.8%
		2年	1,084	135	12.5%	1,036	138	13.3%	1,141	127	11.1%	1,058	119	11.2%	1,080	101	9.4%
		3年	1,089	132	12.1%	1,065	114	10.7%	988	108	10.9%	1,106	111	10.0%	1,021	86	8.4%
		4年	983	69	7.0%	993	50	5.0%	983	34	3.5%	896	30	3.3%	1,010	45	4.5%
		合計	4,222	446	10.6%	4,225	379	9.0%	4,166	345	8.3%	4,154	353	8.5%	4,252	321	7.5%

11) 外部研究費（科学研究費、受託研究費等）採択実績

（単位：千円）

No.	外部資金種別	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	科学研究費補助金	73	102,638	65	85,129	62	88,006
2	共同研究	36	93,300	36	66,364	34	50,747
3	受託研究	13	41,235	22	67,468	24	50,417
4	研究助成金	6	7,500	13	12,330	14	17,666
5	奨学寄付金	12	5,180	13	7,793	10	5,250
6	その他	19	255	32	10,715	27	7,027
	合計	159	250,108	181	249,799	171	219,113

12) 科学研究費採択実績

	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象教員数（人）	①	157	157	161
申請件数	②	78	76	80
申請者比率	②/①	49.7%	48.4%	49.7%
総採択件数	③	73	65	62
採択者比率	③/①	46.5%	41.4%	38.5%
新規採択件数	④	20	18	12
新規採択率	④/②	25.6%	23.7%	15.0%
継続件数	⑤	53	47	50
交付額（千円）	⑥	102,638	85,112	82,810
1件当たり交付額（千円）	⑥/③	1,406	1,309	1,336

※短大教員及び学外研究員の応募・採択件数を含む

13) 地公体・公的機関研究費採択実績

No.	所属	氏名	契約先	研究課題・内容等	金額 (千円)
1	生命環境 化学科	奥田 賢一	（国研）日本医 療研究開発機構 （AMED）	【創薬ブースター】創薬支援推進事業・ 創薬総合支援事業 メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌に対する新規抗菌薬の標的妥 当性検証	7,500
2	生命環境 化学科	奥田 賢一	（国研）日本医 療研究開発機構 （AMED）	【橋渡し研究プログラム】基礎・臨床一 体型の持続可能な橋渡し研究支援拠点形 成 細菌の細胞壁合成因子Xに対する新規 抗菌薬の探索	4,675
3	生命環境 化学科	久保 裕也	（国研）科学技 術振興機構 （JST）	脱炭素社会に向けた炭酸塩化を利用 したカーボンリサイクルシステムの開発	1,950
4	情報工学 科	種田 和正	（国研）科学技 術振興機構 （JST）	【大学発新産業創出基金事業】ス タートアップ・エコシステム共創 プログラム	2,061
5	情報シス テム工学 科	徳安 達士	（国研）科学技 術振興機構 （JST）	【大学発新産業創出基金事業】ス タートアップ・エコシステム共創 プログラム	390
6	総合研究 機構	—	（国研）科学技 術振興機構 （JST）	【大学発新産業プログラムSTART】 大学・エコシステム推進型 スタ ートアップ・エコシステム形成支援	6,110
7	総合研究 機構	—	（国研）科学技 術振興機構 （JST）	【大学発新産業創出基金事業】ス タートアップ・エコシステム共創 プログラム	3,900
8	生命環境 化学科	三田 肇	（国研）宇宙航 空研究開発機構 （JAXA）	フロントローディング研究	3,500

No.	所属	氏名	契約先	研究課題・内容等	金額 (千円)
9	社会環境 学科	上杉 昌也	(独法) 日本学 術振興会 (JSPS)	課題設定による先導的人文学・社 会科学研究推進事業	650
10	総合研究 機構	永淵 修	(国研) 海洋研 究開発機構 (JAMSTEC)	陸域生態系と凍土・周水河環境の 統合観測による物質循環過程の解 明	2,750
11	情報メ ディア学 科	五十嵐 創	大学共同利用機 関法人自然科学 研究機構	大規模観測データによる初期宇宙 の巨大銀河形成の解明	974
12	社会環境 学科	鬼頭 みなみ	日本私立学校振 興・共済事業団	経済性を考慮した航空産業の脱炭 素目標達成経路の分析	400
13	電気工学 科	井上 昌睦	(国研) 新エネ ルギー・産業技術総合 開発機構 (NEDO)	航空機向け革新的推進システム開 発事業/2MW級航空機用超伝導推進 システムの開発	1,900
14	知能機械 工学科	楨田 諭	経済産業省	【AKATSUKIプロジェクト】 「KYUSHU BOOST 10000」九州イノ ベーター人材BOOSTプログラム	200
15	情報マネジメ ント学科/社 会環境学科	宋 宇/ 上杉 昌也	国土交通省	島原市「共創MaaS実証プロジェク ト」	2,505
16	社会環境 学科	乾 隆帝	国土交通省九州 地方整備局	大規模な洪水攪乱下での河川構造 の複雑性の機能と河川生態系の保 全・回復に関する研究	1,436
17	社会環境 学科	田井 明	国土交通省九州 地方整備局	令和6年度「革新的な統合気象デー タを用いた洪水予測の高精度化」 研究開発	1,959
18	生命環境 化学科	松山 清	(国研) 農業・食品 産業技術総合研究機 構生物系特定産業技 術研究支援センター	【SBIR】次世代農業生産技術 「Plant Drug Delivery System」 の開発	2,665
19	社会環境 学科	田井 明	(公財) 河川財 団	ダム堆砂を用いた加工干潟におけ る覆砂の効果持続性に関する調査	1,000
20	情報通信 工学科	アンパイリ・ プーデット	(公財) 電気通 信普及財団	2024年度海外渡航旅費援助	290
21	知能機械 工学科	仙波 卓弥	福岡県産業・科 学技術交流財団 (IST)	【Go-Tech】成長型中小企業等研究開発支 援事業 世界初のガラス製両面微細マイ クロレンズアレイを大量生産する超精密 金型加工技術の開発	1,890
22	教養力育 成セン ター	檜崎 兼司	福岡県古賀市	令和6年度介護予防分野専門家によ る学術的伴走支援業務	1,457
23	情報工学 科	馬場 謙介	福岡県古賀市	古賀市まちづくり実証実験「仮名 加工情報データ解析事業」保守契 約料	500
24	社会環境 学科	上杉 昌也	福岡県古賀市	JR古賀駅周辺街路空間解析調査業 務	200
25	教養力育 成セン ター	檜崎 兼司	福岡県篠栗町	「篠栗元気もん活動」共同事業	4,000
	合計			25事業	54,862

14) 特許出願・登録案件一覧

①令和6年度特許出願件数：13件

②令和6年度特許登録案件：10件

No.	国	特許番号	登録日	発明の名称（共有者）	発明者 職位 (R6)	所属
1	日本	特許第 7534280号	2024/8/5	オレフィン系樹脂多孔質体の製造方法、電池用セパレータの製造方法、および製造装置（トヨタ自動車株式会社との共有）	松山 清 教授	生命環境化学科
2	日本	特許第 7565516号	2024/10/3	鉛蓄電池の再生方法および再生鉛蓄電池の製造方法（株式会社関谷との共有）	田島 大輔 教授	電子工学科
3	日本	特許第 7593590号	2024/11/25	コーヒー製品の製造方法（東洋ビジュアルソリューションズ株式会社との共有）	松山 清 教授	生命環境化学科
4	米国	US 11, 987, 862	2024/5/21	ニオブおよびタンタルの液化方法、およびニオブ溶液およびタンタル溶液の製造方法	久保 裕也 准教授	生命環境化学科
5	中国	ZL202010027 415. 3	2024/10/29	海面計測システム、海面計測方法および記憶媒体	盧 存偉 教授	電子情報工学科
6	中国	ZL202211533 763. 3	2024/11/19	オレフィン系樹脂多孔体の製造方法、電池用セパレータの製造方法および電池用セパレータの製造装置（トヨタ自動車株式会社との共有）	松山 清 教授	生命環境化学科
7	ブラジル	BR112023015 399-9	2024/11/26	ニオブおよびタンタルの液化方法およびニオブ溶液およびタンタル溶液の製造方法	久保 裕也 准教授	生命環境化学科
8	米国	US12, 163, 00 2	2024/12/10	オレフィン系樹脂多孔質体の製造方法（プライム・プラネットエナジー&ソリューションズ株式会社との共有）	松山 清 教授	生命環境化学科
9	韓国	KR10- 2758497	2025/1/17	オレフィン系樹脂多孔質体の製造方法（プライム・プラネットエナジー&ソリューションズ株式会社との共有）	松山 清 教授	生命環境化学科
10	韓国	KR10- 2758500	2025/1/17	オレフィン系樹脂多孔質体の製造方法（プライム・プラネットエナジー&ソリューションズ株式会社との共有）	松山 清 教授	生命環境化学科

15) 総合研究機構主催研究講演（外部研究者等）一覧

（単位：人）

No.	主催部門	講演題目	講演者 等	参加者数
1	情報科学研究所	情報マネジメント学科/数理・データサイエンス・AI研究センター開設記念シンポジウム 基調講演	株式会社 みんなの銀行 代表取締役頭取 永吉 健一 氏	85
2	情報科学研究所	無線システムの電波伝搬理解に役立つ確率・統計モデル	電気通信大学 名誉教授 唐沢 好男 先生	17
3	情報科学研究所	マッチング問題における安定性	東京科学大学工学院 准教授 河崎 亮 先生	18
4	エレクトロニクス研究所	ナノ粒子が自己組織化したコロイド液晶	岡山大学 助教 加藤 利喜 先生	58
5	環境科学研究所	第19回環境科学研究所研究発表会 特別講演	国土交通省 九州地方整備局 武雄河川国道事務所 所長 寺尾 直樹 氏	35
合計				213

16) 総合研究機構主催研究成果発表会・技術講習会（学内研究者）一覧

（単位：人）

No.	主催部門	種別	内容	参加者数
1	エレクトロニクス研究所	講習会	共同利用機器の「技術講習会」 ・走査電子顕微鏡（SEM） 講師：知能機械工学科 天本 祥文 准教授 総合研究機構 宋 麗香 職員 ・X線回折装置（XRD） 講師：生命環境化学科 北山 幹人 教授 等 計36件	512
		発表会	エレクトロニクス研究所第1回交流会-福工大の宇宙科学研究-	33
2	情報科学研究所	講習会	ベクトルネットワークアナライザー（VNA）講習会	13
		発表会	第4回 研究コミュニティ交流会	49
3	総合研究機構	発表会	総合研究機構研究成果報告会	128
合計				735

17) 総合研究機構の研究支援予算制度（令和6年度予算額：18,979千円）

（単位：千円）

No.	制度名称	制度の概要等	件数	実績
1	研究スタートアップ支援	新任教員やライフイベント復帰教員等の円滑な研究スタートアップをサポート	8	3,397
2	若手卓越研究支援	45歳以下の若手研究者の卓越した研究創出をサポート	2	1,502
3	研究高度化支援	研究者グループの卓越した研究創出や大型外部資金採択に向けた研究活動をサポート（2年間）	1	8,000
4	科研費リトライ支援	科研費申請・採択に向けた研究活動をサポート	4	2,320
5	学術論文作成支援	学術論文数増加に向けた関連経費補助（サポート）	29	1,062
6	研究計画書作成支援	外部資金獲得に向けた研究計画書作成等をサポート	23	1,309
7	学術図書出版支援	研究高度化及び研究成果の社会還元に向けた学術図書出版経費の一部補助（サポート）	0	0
8	国際学術誌論文投稿支援	投稿論文について、オープンアクセス化に必要な投稿費用を全額支援（限度額有）	2	1,389
	合計	8事業	69	18,979

18) 直近10カ年導入機器一覧：33計測機器等

No.	計測機器名	No.	計測機器名
<エレクトロニクス研究所>		18	真空乾燥機
1	レーザ回折式粒子径分布測定装置	19	原子間力顕微鏡（AFM）
2	TOC用オートサンプラー	20	フーリエ変換赤外分光装置（FT-IR）
3	熱分析装置（TG-DTA/DSC）	21	研磨機（低周速ドクターラップ）
4	走査電子顕微鏡（SEM）	22	電界放出形走査電子顕微鏡（FE-SEM）
5	イオンビームスパッタ装置	<情報科学研究所>	
6	UV放射照度計	23	ベクトルネットワークアナライザ
7	ワイヤーボンダー	24	MR ヘッドマウントディスプレイHoloLens 2
8	LC用蛍光検出器	25	MR ヘッドマウントディスプレイHoloLens 2
9	蛍光顕微鏡	26	力覚ディスプレイ Touch USB
10	全室素計（TN）	27	視線追跡システム グラス
11	マスクレス露光装置	28	AirMagnet
12	ハイボリュームエアサンプラー	29	視線追跡システム スペクトラム
13	物理特性測定システム（PPMS）	30	電波暗室
14	電子線マイクロアナライザ（EPMA）	31	VLSI設計研究システム
15	三次元光学プロファイラー	32	MR ヘッドマウントディスプレイHoloLens 1
16	顕微ラマン分光装置	33	モーションキャプチャー
17	マルチコーター		

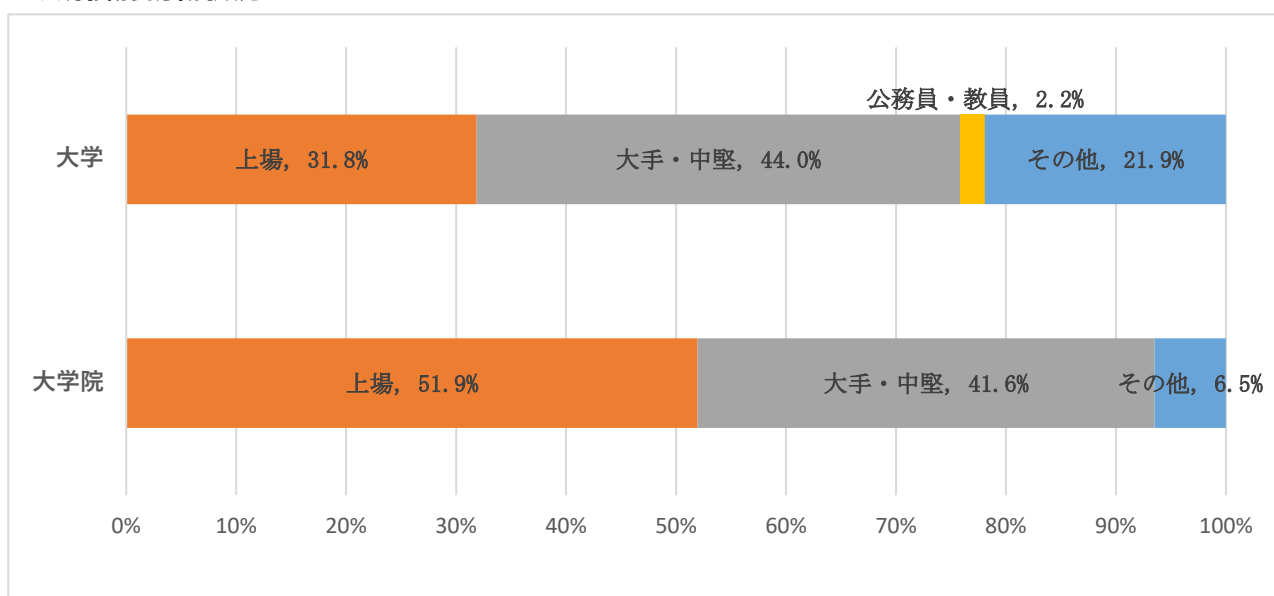
19) 自治体・企業・教育機関等との連携協定一覧（締結年月日順）29件（令和7年3月31日現在）

No.	協定名	協定先	締結年月日
1	株式会社福岡銀行及び株式会社ふくおかフィナンシャルグループと福岡工業大学との産学連携協力に関する協定	・株式会社福岡銀行 ・株式会社ふくおかフィナンシャルグループ	H20. 5. 23
2	株式会社西日本シティ銀行と福岡工業大学との産学連携協力に関する協定	・株式会社西日本シティ銀行	H20. 7. 28
3	東部地域大学連携に関する協定	・九州産業大学 ・福岡女子大学	H23. 11. 9
4	国立大学法人九州工業大学と福岡工業大学との連携に関する協定	・国立大学法人九州工業大学	H24. 5. 1
5	株式会社西日本新聞社と学校法人福岡工業大学との包括的連携協力に関する協定	・株式会社西日本新聞社	H24. 9. 26
6	福岡工業大学と株式会社九電工との研究開発における包括的な連携推進に関する協定	・株式会社九電工	H24. 11. 27
7	新宮町と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・新宮町	H26. 3. 20
8	古賀市と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・古賀市	H26. 7. 23
9	株式会社正興電機製作所と福岡工業大学との包括的連携推進に関する協定	・株式会社正興電機製作所	H26. 7. 23
10	長崎大学、熊本県立大学及び福岡工業大学との環境分野における包括的連携協力における協定	・長崎大学 ・熊本県立大学	H26. 12. 4
11	学校法人福岡工業大学と一般社団法人ガールスカウト福岡県連盟との包括的連携に関する協定	・一般社団法人ガールスカウト福岡県連盟	H27. 2. 15
12	福岡和白病院、創生会及び福岡工業大学の包括的連携に関する協定	・社会医療法人財団池友会福岡和白病院 ・社会福祉法人創生会	H27. 3. 5
13	中村学園大学短期大学部と福岡工業大学短期大学部との交流協定	・中村学園大学短期大学部	H27. 5. 25
14	北九州工業専門学校、大分県立工科短期大学校及び福岡工業大学短期大学部との包括的連携協力	・北九州工業専門学校 ・大分県立工科短期大学校	H27. 7. 10
15	芝浦工業大学と福岡工業大学との連携・協力に関する協定	・芝浦工業大学	H28. 10. 7
16	長崎県島原市と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・島原市	H30. 10. 12
17	福岡未来創造プラットフォームに関する包括連携協定	・福岡市、・福岡商工会議所 ・（一社）福岡市中小企業経営者協会 ・九州産業大学、九州大学、サイバー大学、純真学園大学、西南学院大学、第一薬科大学、筑紫女学園大学、日本経済大学、福岡歯科大学、福岡女子大学、福岡大学、令和健康科学大学	R1. 5. 9 (R6. 4. 1 加盟機関更新)
18	篠栗町と福岡工業大学との包括的連携に関する協定	・篠栗町	R2. 8. 7
19	国立大学法人大分大学と学校法人福岡工業大学との包括連携・協力協定	・大分大学	R2. 8. 25
20	災害時における施設等の利用協力に関する協定	・福岡市	R3. 12. 1
21	福岡工業大学と福岡県警察とのサイバーセキュリティに関する協定	・福岡県警察本部	R4. 6. 28
22	古賀市と福岡工業大学との仮名加工情報を用いたデータサイエンスに関する連携協定	・古賀市	R4. 11. 7
23	福岡教育大学と福岡工業大学との教員養成に関する連携協定	・福岡教育大学	R6. 2. 21
24	法政大学と福岡工業大学との連携協力に関する協定	・法政大学	R6. 3. 18
25	福岡工業大学と神田女学園中学校高等学校との高大連携に関する合意	・神田女学園中学校高等学校	R6. 3. 21
26	福岡市災害ボランティアセンター設置に関する協定	・福岡市 ・社会福祉法人福岡市社会福祉協議会	R6. 3. 25
27	株式会社共和電業と福岡工業大学との包括連携・協力協定	・株式会社共和電業	R6. 3. 28
28	東京都立杉並工科高等学校と福岡工業大学との高大連携に関する協定	・東京都立杉並工科高等学校	R6. 9. 27
29	東福岡高等学校と福岡工業大学との高大連携に関する協定	・東福岡学園東福岡高等学校	R7. 1. 30

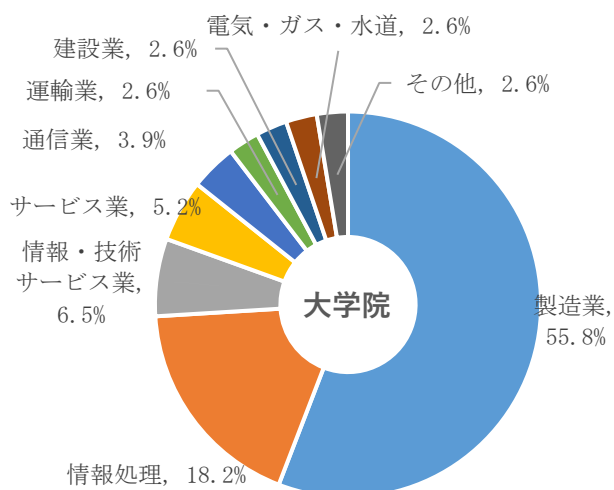
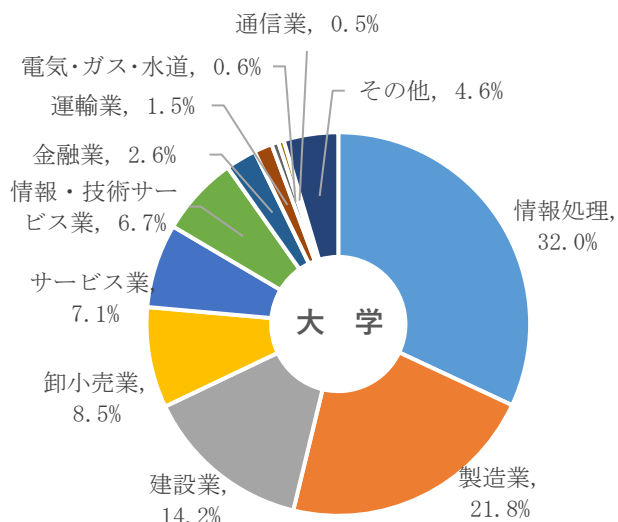
20) 就職率・実就職率（全体・学科別）

学部・学科	R3年3月卒業生		R4年3月卒業生		R5年3月卒業生		R6年3月卒業生		R7年3月卒業生	
	就職率	実就職率	就職率	実就職率	就職率	実就職率	就職率	実就職率	就職率	実就職率
大学	99.5%	95.7%	99.9%	96.6%	99.8%	98.1%	99.6%	98.0%	99.9%	98.1%
工学部	99.7%	96.7%	100%	98.5%	99.7%	98.4%	99.7%	98.6%	100%	98.6%
電子情報工学科	100%	98.5%	100%	100%	100%	97.6%	100%	98.5%	100%	97.5%
生命環境化学科	98.6%	93.3%	100%	94.9%	100%	97.2%	97.1%	97.1%	100%	98.8%
知能機械工学科	100%	98.1%	100%	98.9%	99.0%	99.0%	100%	98.9%	100%	100%
電気工学科	100%	96.6%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	97.9%
情報工学部	99.4%	96.4%	99.7%	96.4%	99.7%	98.6%	99.7%	98.6%	99.7%	98.9%
情報工学科	100%	97.8%	99.3%	97.8%	100%	97.6%	99.2%	97.7%	99.1%	98.2%
情報通信工学科	100%	97.3%	100%	91.3%	100%	98.8%	100%	97.6%	100%	100%
情報システム工学科	98.7%	96.2%	100%	98.8%	100%	100%	100%	100%	100%	98.7%
システムマネジメント学科	98.5%	92.8%	100%	96.8%	98.4%	98.4%	100%	100%	100%	98.1%
社会環境学部	99.4%	92.2%	100%	93.3%	100%	96.7%	100%	95.5%	100%	95.7%
社会環境学科	99.4%	92.2%	100%	93.3%	100%	96.7%	100%	95.5%	100%	95.7%
大学院	98.2%	90.2%	100%	93.6%	95.4%	92.5%	100%	95.3%	98.7%	97.5%

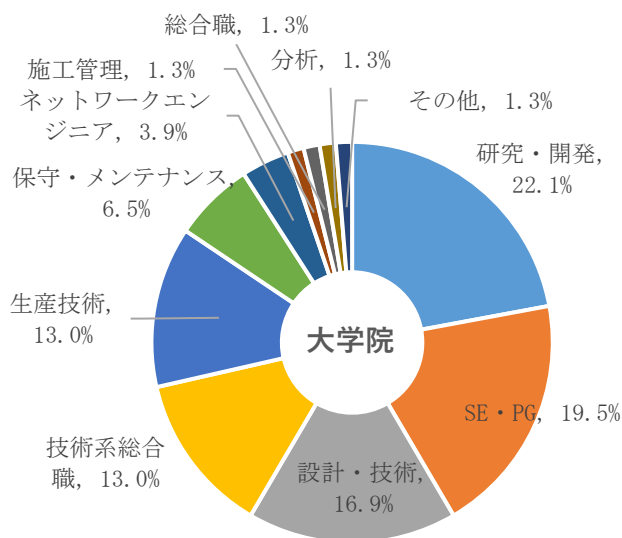
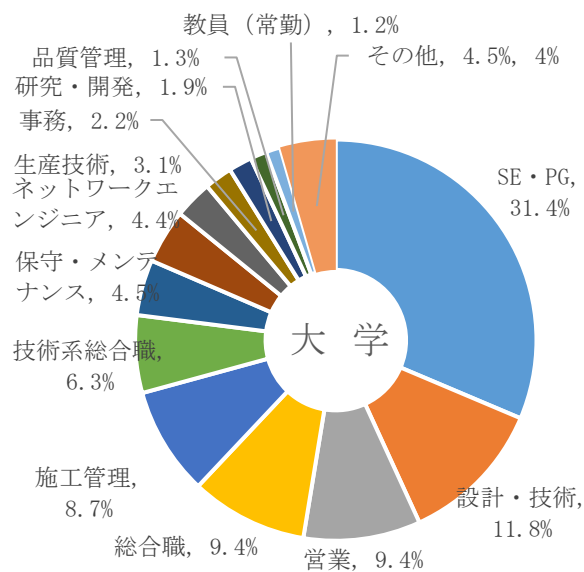
21) 規模別就職状況



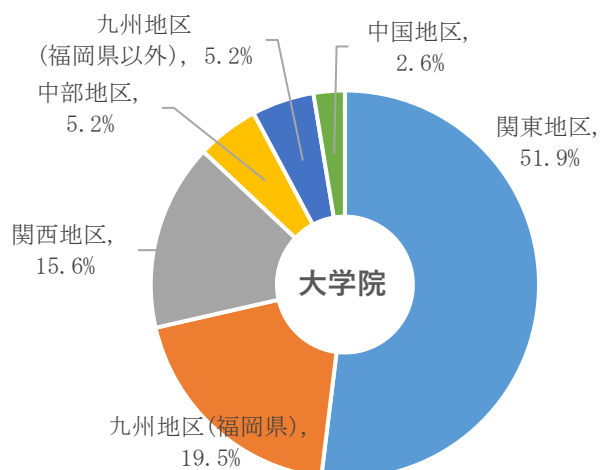
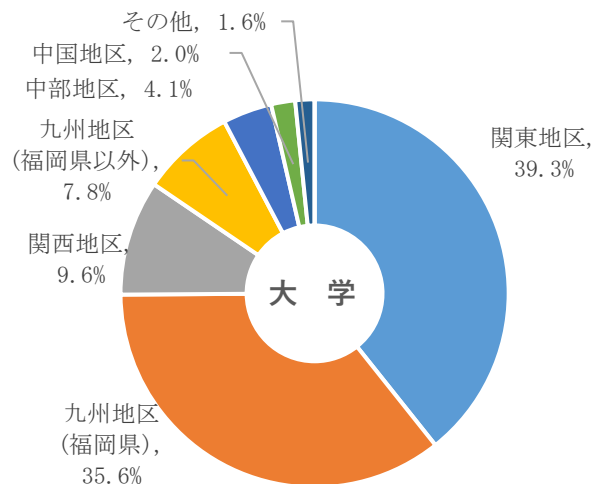
22) 業種別就職状況



23) 職種別就職状況



24) 地区別就職状況



25) グローバル化教育施策一覧

教育施策の区分	個別教育施策	
英語教育支援	正課授業での教員補助（「異文化理解」科目）	
	留学プログラム事前レッスン	
	プライベート・グループレッスン、論文校正	
	英語学習イベント	
	コンテスト（Speech/Writing）	
4年間一貫支援	グローバル人材育成プログラム：Global Challenge Program（GCP）	
海外派遣 （Outbound）	研究室インターンシップ（シンガポール）	
	グローバルPBL（タイ、台湾、カナダ、ベトナム、マレーシア）	
	短期語学研修（カナダ）	
	タイ短期派遣研修（タイ）	
	学部・研究室交流派遣（要望に応じて）	
	長期学生支援制度（私費）	
協定校受入れ事業 （Inbound）	短期・サマープログラム（タイ・台湾）	タイ：キングモンクット工科大学ラカバン校、台湾：高雄科技大
	大学・大学院入学支援（中国・タイ）	中国：青島・魯東、タイ：キングモンクット工科大学ラカバン校
	科目等履修生受入れ（中国・台湾・韓国）	中国：青島・魯東、台湾：元智、韓国：亜洲・慶星、
	日本語教育	日本語能力試験対策/学習相談/スピーチコンテスト/作文集の刊行
オンラインプログラム	オンライン英会話	
	オンライン留学（フィリピン・セブ島）Brighture/CPILS	
	VALE Program - 言語・文化交流プログラム（南フロリダ大学）	
グローバルビジョンの実質化	国際適応力の指標確立	
	英語での教育高度化	
	グローバル企業への就職支援強化	
	グローバルマインドの醸成（セミナー・講演会）	FIT Global Alumni Network
	協定校の新規開拓	
	正規留学生獲得ネットワーク構築	
	留学生別科運営	
	地域のグローバル化促進	

26) 国際交流実績一覧

①協定校から当年度に受け入れた留学生

大学名	課程	学生数	備考
青島科技大学（中国）	修士課程	2名	4+2国際連携プログラム受入
キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）	修士課程	5名	ジョイントプログラム(FBK経由)

②協定校に当年度に送り出した留学生

大学名	課程	学生数	備考
国立高雄科技大学（台湾）	科目等履修生	1名	長期留学プログラム

③短期学生交換プログラム等への参加人数

大学、渡航先等	プログラム名称、受入形態	学生数	期間
亜洲大学校（韓国）	インターナショナルサマースクール(AISS)	1名派遣	23日間
	科目等履修生	2名受入	6か月間
慶星大学校（韓国）	長期交換留学	2名派遣	10か月間
	科目等履修生	6名受入	6か月間
東國大学校WISEキャンパス（韓国）	科目等履修生	1名受入	6か月間
青島科技大学（中国）	科目等履修生	6名受入	1年間
	学部研究生	1名受入	6か月間
大連理工大学サマースクール（中国）	短期サマープログラム	2名派遣	8日間
青松中学校（中国）	視察受入れ	22名受入	1日間
国立高雄科技大学（台湾）	海外協定校長期留学プログラム	1名派遣	1年間
	台湾グローバルPBL	8名派遣	7日間
	Virtual Exchange Program	29名派遣・受入	3日間
	福岡研修	15名受入	1週間
	科目等履修生	6名受入	6か月間
	学生交流会	15名受入	1日間
宜蘭大学（台湾）	電子情報工学科グローバルPBL	10名派遣	7日間
	グローバルPBL受入れ（電子情報工学科）	12名派遣	8日間
	生命環境化学科グローバルPBL	4名派遣	5日間
	短期プログラム	10名受入	5日間
	科目等履修生	1名受入	6か月間
明新科技大学（台湾）	電子情報工学科 明新科技大学短期留学プログラム	8名派遣	7日間
元智大学（台湾）	科目等履修生	2名受入	6か月間
雲林科技大学（台湾）	課外クラブ代表団学生交流会	18名受入	1日間
キングモンクット工科大学 ラカバン校（KMITL）（タイ）	電子情報工学科グローバルPBL	8名派遣	12日間
	情報マネジメント学科 IMIEプログラム	11名派遣	9日間
	タイ短期派遣研修	9名派遣	15日間

大学、渡航先等	プログラム名称、受入形態	学生数	期間
キングモンクット工科大学 ラカバン校 (KMITL) (タイ)	KMITL 工学部 Industrial Engineering 学科 Industrial Engineering and Logistics Management Program	5名受入	27日間
	Biomedical Engineering 研修生	2名受入	3か月間
	Hospitality and Tourism Training in Japan	9名受入	1日間
	日本語別科 ジョイントプログラム	5名受入	6か月間
	KMITL Biomedical Engineering Field Trip in JAPAN	61名受入	2日間
	短期研修 サマープログラムにおけるリベラルアーツ学部日本語学科生の受入れ	10名受入	20日間
	短期研修 サマープログラムにおける工学部生の受入れ	7名受入	27日間
	情報マネジメント学科受入れ研修生	1名受入	3か月間
	情報マネジメント学科受入れ研修生	2名受入	4か月間
	日本語別科 ジョイントプログラム	1名受入	1年間
	日本語別科 ジョイントプログラム	1名受入	1年6か月間
	日本語学科生インターンシップ	2名受入	3か月間
キングモンクット工科大学 トンプリ校 (KMITL) (タイ)	研修生受入れ	2名受入	1日間
泰日工業大学 (タイ)	日本短期研修	14名受入	1日間
ハノイ工科大学 (HUST) (ベトナム)	情報工学部グローバルPBL (FIT-HUST-TP)	3名派遣	8日間
Posts and Telecommunications Institute of Technology (PTIT) (ベトナム)	情報工学部グローバルPBL (FIT-PTIT-VM0)	6名派遣	8日間
マラ工科大学 (マレーシア)	知能機械工学科グローバルPBL	7名派遣	13日間
シンガポール国立大学等 (シンガポール)	社会環境学部ECO-STEP	10名派遣	5日間
テマセク・ポリテクニク (TP) (シンガポール)	短期研修	7名派遣	1か月間
	情報マネジメント学科研修生受入れ	6名受入	4か月間
	情報マネジメント学科研修生受入れ	2名受入	3か月間
Center for Premier International Language Studies (CPILS) (フィリピン)	CPILSオンライン留学プログラム (夏季・冬季)	12名派遣	4週間
Brighture English Academy (フィリピン)	Brighture オンライン留学プログラム	1名派遣	3週間
デリー準州教育委員会 (インド)	JSTさくらサイエンスプログラム 招へいプログラム	7名受入	7日間
ハワイ大学マノア校 (アメリカ)	Global Challenge Program 2期生海外研修	10名派遣	17日間

大学、渡航先等	プログラム名称、受入形態	学生数	期間
南フロリダ大学（アメリカ）	Virtually Assisted Language Exchange Program (FIT VALE) オンライン協働プログラム	6名派遣	1日間
センテニアルカレッジ（カナダ）	夏季海外英語研修	10名派遣	1か月間
ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）	電気工学科グローバルPBL	9名派遣	10日間
学生派遣・受入人数合計（教職員の派遣は除く *5）		172名派遣 155名受入	

*5 教職員間の派遣・受入の当年度実績（オンラインを含む） 157名(延べ数)(昨年度50名)

27) オンライン英会話プログラム（Hanasoプログラム）参加状況

コース	学部	大学院	短大	合計
夏休み1か月コース	10	1	0	11
春休み1か月コース	5	0	0	5
Advanced対象2か月コース	20	0	0	20
合計	35	1	0	36

28) 学術交流使節団の派遣・受入状況

使節団体名	国名	主催	来学者数	期間
タイ王国教育省私立教育委員会	タイ	福岡県私学協会	28	1日間

29) 国外交流協定大学一覧

：R6年度新規協定締結大学

R7. 3月現在：42大学・機関

国・地域等	No.	協定大学名			所在地	締結年月日
韓国	1	私立	慶星大学校	Kyung Sung University	釜山市	1981. 12. 5
	2	私立	亜洲大学校	Ajou University	水原市	1990. 10. 1
	3	私立	啓明大学校工学部	Keimyung University	大邱市	2009. 11. 3
	4	私立	東國大学校WISEキャンパス	Dongguk University WISE	慶州市	2023. 9. 1
	5	国立	釜慶大学校	Pukyong National University	釜山市	2023. 11. 8
	6	私立	東亜大学校	Dong-A University	釜山市	2023. 12. 18
	7	国立	昌原大学校	Changwon National University	慶尚南道昌原市	2023. 12. 18
中国	8	国立	大連理工大学	Dalian Univ. of Technology	大連市	1988. 2. 24
	9	国立	南京理工大学	Nanjing University of Science and Technology	南京市	1993. 12. 25
	10	公立	青島科技大学	Qingdao Univ. of Science and Technology	青島市	2008. 4. 18
	11	公立	北華大学	Beihua University	吉林市	2007. 10. 29
	12	公立	魯東大学	Ludong University	煙台市	2024. 8. 2
	13	公立	蘇州大学	Soochow University	蘇州市	2024. 12. 3
台湾	14	国立	国立高雄科技大学	National Kaohsiung University of Science and Technology	高雄市	2017. 7. 27
	15	私立	元智大学	Yuan Ze University	桃園市	2022. 8. 30
	16	国立	国立東華大学	National Dong Hwa University	花蓮県	2023. 7. 21
	17	国立	国立宜蘭大学	National Ilan University	宜蘭市	2023. 7. 28
	18	私立	明新科技大学	Minghsin University of Science and Technology	新竹県	2023. 12. 25
	19	国立	雲林科技大学	National Yunlin University of Science and Technology	雲林県	2024. 5. 28
タイ	20	王立	キングモンクット工科大学ラカバン校	King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	バンコク都	2008. 3. 13 2012. 10. 31 (工学部覚書)
	21	国立	チュラロンコン大学理学部	Chulalongkorn University	バンコク都	2009. 2. 16
	22	私立	泰日工業大学	Thai-Nichi Institute of Technology	バンコク都	2017. 4. 3
	23	王立	キングモンクット工科大学トンブリ校	King Mongkut's University of Technology Thonburi	バンコク都	2023. 3. 29

国・地域等	No.	協定大学名		所在地	締結年月日
マレーシア	24	国立	マラ工科大学	MARA University of Technology	ペナン州 2023. 3. 27
インドネシア	25	国立	マラン大学	State University of Malang	マラン市 2023. 7. 10
ベトナム	26	国立	ダナン大学工科大学	The University of Danang-University of Science and Technology	ダナン市 2023. 10. 10
	27	国立	ハノイ工科大学	Hanoi University of Science and Technology	ハノイ市 2024. 1. 22
	28	国立	ホーチミン市工科大学	Ho Chi Minh City University of Technology	ホーチミン市 2024. 1. 25
	29	国立	国立郵政通信技術学院	Posts and Telecommunications Institute of Tecnology	ハノイ市 2024. 6. 5
シンガポール	30	国立	テマセク・ポリテクニク	Temasek Polytechnic	シンガポール 2024. 2. 15
米国	31	公立	フットヒルカレッジ	Foothill College	カリフォルニア州ロスアルトスヒルズ 1992. 6. 12
	32	公立	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	California State University, East Bay	カリフォルニア州ヘイワード 2003. 4
	33	公立	サンノゼ州立大学	San Jose State University	カリフォルニア州サンノゼ 2015. 8. 6
	34	私立	セントメアリーズカレッジカリフォルニア	Saint Mary's College of California	カリフォルニア州モラガ 2018. 1. 16
	35	公立	ハワイ大学マノア校	University of Hawai'i at Mānoa	ハワイ州ホノルル 2023. 8. 8
	36	公立	サンフランシスコ州立大学	San Francisco State University	カリフォルニア州サンフランシスコ 2023. 12. 6
カナダ	37	公立	センテニアルカレッジ	The Centennial College of Applied Arts & Technology	オンタリオ州トロント 2023. 2. 14
	38	公立	ブリティッシュコロンビア大学応用科学部	The University of British Columbia	ブリティッシュコロンビア州バンクーバー 2023. 8. 10
豪州	39	公立	フェデレーション大学オーストラリア	Federation University Australia	ヴィクトリア州バララット 2001. 12. 20 2015. 12. 18
アルバニア	40	公立	ティラナ工科大学	Polytechnic University of Tirana	ティラナ 2009. 2. 26
イタリア	41	国立	ナポリ・フェデリコ2世大学	University of Naples Federico II	ナポリ 2018. 9. 10
インド	42		デリー準州教育委員会	Delhi Board of School Education	デリー 2023. 11. 20

30) 社会連携PBLプログラム一覧

◆地域課題の解決をテーマにプロジェクト型で学生のグループ活動によって課題解決提案または実行を伴う取組を掲載しています。

No.	連携先	活動名	活動授業	課外	担当教職員	所属	参加人数
1	福岡市 (経済観光文化局)	福岡市の観光についての課題解決策の提案	フィールドワーク (3年次)		田中渡邊 陳	社会環境	36
2	福岡市 (大学周辺)	「福工大周辺地域」の資源と魅力	地域創生論 (1年次)		坂本	教養力育成センター	283
3	福岡市千早公民館	高齢者向けスマホ教室	課外活動	○	倉本	社会連携センター	14
4	古賀市	シスマネPBL古賀市 工場見学ツアー、企業の課題解決、ふるさと納税	ゼミナールⅡ (3年次)		小林	情報マネジメント	17
5	古賀市	プラズマスイートコーン	卒研		北崎	電気工学	10
6	古賀市	古賀駅西口ウォークアブル社会実験	ゼミナール (2・3年生)		上杉	社会環境	26
7	古賀市	小学生健康アンケートアプリの開発	卒研		馬場	情報工学	2
8	古賀市	データ分析システムKURA (仮名化工情報) の改善	課外活動	○	馬場	情報工学	3
9	新宮町	シスマネPBL新宮町PJ 小学生向けICT教育	ゼミナールⅡ (3年次)		井口	情報マネジメント	10
10	新宮町	新宮町水生生物調査PBL	ゼミナール (2年) + サポートで3, 4年		乾	社会環境	9
11	島原市	たしろ号EV化実証実験事業	ゼミナール (2年、3年)		宋 上杉	情報マネジメント / 社会環境	20
12	篠栗町	野球教室PBL	課外活動	○	山本	硬式野球部	48
13	福岡県警	シスマネPBL県警PJ	ゼミナールⅡ (3年次)		クラ	情報マネジメント	6
14	大学硬式野球部	シスマネPBLスポーツPJ	ゼミナールⅡ (3年次)		藤岡	情報マネジメント	4
15	福岡未来創造PF・香椎商工連盟	地域創生PBL：商店街 (香椎商店街課題)	課外活動	○	武藤 藤原	社会連携センター	2
本学学生参加人数 (正課)							423
同上 (課外)							67
合計							490
取組件数							15

31) 社会連携関連行事の開催状況

月	内容	主催・共催(太字：福岡工業大学)
R6	和白東3丁目親和会総会・町内会総会	和白東3丁目親和会・町内会
4	城東高校スプリングコンサート	城東高校吹奏楽部
	福岡県商業教育研究部会第2分科会簿記大会練習会	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
5	吹奏楽団合同練習(5月・7月・8月実施)	吹奏楽団
	城東高校弓道部合同練習	城東高校弓道部
	社会環境学科長期インターンシップ結末会	社会環境学科
	博多青松高校通信制勉強会	博多青松高校・入試課受入
	吹奏楽団スプリングコンサート	吹奏楽団
	ガールスカウト福岡県連盟 定時総会	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
6	FIT講座(6月・10月・11月・R7.1月・2月開催)	社会連携センター
	福岡クラリネティストグループ演奏会	吹奏楽団
	福岡県商業教育研究部会 第2分科会 簿記大会	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
	和白校区壮年ソフトボール大会	和白公民館
	(社)九州インターンシップ推進協議会定時総会・講演会	九州インターンシップ推進協議会・就職部受入
	福岡県教育連盟 講師研修会	入試広報課受入
	ビジネス計算実務検定試験研修会(6月・11月開催)	福岡県高等学校商業教育研究部会・入試広報課受入
7	九州少年野球大会	福岡県(児童自立支援施設福岡学園)
	城東高校七夕コンサート	城東高校吹奏楽部
	長期インターンシップ中間発表会	社会環境学科受入
	筑前地区中学校放送大会	城東高校受入
	九州学生少林寺拳法連盟講習会	九州学生少林寺拳法連盟
8	城東高校弓道部練習試合(8月・3月実施)	城東高校弓道部
	サイエンスフェスタ2024 in FIT	福岡工業大学モノづくりセンター
	長期インターンシップ前期コンテスト	社会環境学科受入
	モノづくりイベント「つくると」	ピノー株式会社・社会連携センター受入
9	ガールスカウト研修会	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
	九産大九州高校模試(9月・10月実施)	九産大九州高校・入試広報課受入
	新宮中学校体験授業	城東高校受入
10	全日本ロボット相撲 九州大会	ロボット相撲大会事務局
	ウェルネス研究センター測定体験会	教養力育成センター
	高文連放送部門NHK杯県大会	福岡県高等学校芸術・文化連盟
	福岡県高等学校英語教育研究部会ディベート大会	福岡県高等学校英語教育研究部会
	日本管弦打楽器ソロ・コンテスト	福岡吹奏楽連盟 城東高校吹奏楽部受入
11	西日本学生軟式野球大会開会式	大学軟式野球部
	福岡県高等学校ダンス合同講習会	城東高校受入
	九州沖縄地区高等学校英語教育研究部会ディベート大会	福岡県高等学校英語教育研究部会
	新宮東小学校来校(模擬講義)	新宮東小学校・社会連携センター受入
	弓道部練習試合	大学弓道部
	福岡県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表	福岡県高等学校芸術・文化連盟
	高文連自然科学部門ポスター発表大会	福岡県高等学校芸術・文化連盟
12	九州アプリチャレンジキャラバンコンテスト	(株)学びと成長仕組みデザイン研究所・教育開発推進室受入
	東区ドッジボール大会	福岡市東区ドッジボール大会実行委員会
	高文連放送部門NHK杯九州大会	福岡県高等学校芸術・文化連盟
	高文連自然科学部門研究発表九州大会	福岡県高等学校芸術・文化連盟
	バドミントン合同練習会	大学バドミントン同好会
	玄界高校冬季集中勉強会	玄界高校・入試広報課受入
	新宮高校電子顕微鏡実習	新宮高校・入試広報課受入
	長期インターンシップ発表会	社会環境学科受入
	大学・高校合同クリスマスコンサート	福岡工業大学・城東高校
R7	城東高校ダンス部ダンスフェスティバル	城東高校ダンス部
	大学入学共通テスト	(独)大学入試センター
1	FITジュニア小学部保護者会総会・卒部式	FITジュニア
	工業クラブ連盟生徒研究発表会	福岡県高等学校工業クラブ連盟
2	西日本新聞コミュニケーション大賞表彰式	西日本新聞社・福岡工業大学
	第3分科会第4回幹事・専門委員合同委員会	入試広報課受入 商業高校専門部会
	ガールスカウト活動報告会	(一社)ガールスカウト福岡県連盟
	DESCENTE CUP 中学校軟式野球大会	デサントジャパン(株)・硬式野球部受入
	大学吹奏楽団定期演奏会	吹奏楽団
3	2025年度課題曲講習会	九州大学吹奏楽連盟
	福岡ドリームフェスティバル(キッズニアイベント)	キッズニア福岡・社会連携センター
	城東高校吹奏楽部合同コンサート	城東高校吹奏楽部
	城東高校吹奏楽部ゆかいな仲間コンサート	城東高校吹奏楽部
	新宮高校イングリッシュキャンプ	新宮高校・入試広報課受入

32) 社会連携活動の取組状況及び成果一覧

活動区分	取組名称等()内は連携先)	取組状況及び当年度の成果等
地域環境の保全	楯の松原保全活動 (新宮町)	地域環境美化活動の一環として、清掃ボランティア活動に本学の強化部より98名参加
	コンバートEV車両によるEV車両の走行実験 (島原市)	車両の燃費比較や脱炭素を見据えたCo ₂ 削減効果の分析を行い、適正な運行形態を検証する実証実験を行う
	ウォークアブル社会実験に参加 (古賀市)	社会環境学科26名が歩行者調査やアンケート調査に協力
教育・文化の振興	小学生向けにプログラミング体験教室を開催(新宮町図書館・和白東校区)	車型ロボットとドローンのプログラミングの体験に小学生48名保護者18名が参加
	生体反応に関する模擬授業の実施 (新宮東小学校)	「人の気持ちを読み取る方法」をテーマに、心拍数の変化等、体の反応から人の気持ちを読み取る技術について講義を実施
	「異文化への相互理解」をテーマにキャンパスサミットを開催	5つの国、地域の留学生を含む学生27名が、地域住民に向けて異文化理解をテーマに発表
	「ユースフェスタひがし2024」に参加(福岡市)	ロボット操作体験とレジンキーホルダー制作体験のワークショップを開催
経済振興	福岡県の観光について課題解決策の提案(福岡市)	福岡市経済観光文化局を交え、観光都市としての福岡の課題や課題解決方法の提案などを発表
	商店街PBLとして、香椎商店街の活性化に取り組む(福岡未来創造プラットフォーム)	香椎商工連盟と7大学の学生と共に、「香椎勝負まつり」にて、学生企画のブースを出展
	プラズマ照射による高付加価値農業に関する実証実験の実施(古賀市)	スイートコーンの早期収穫や品質向上を目指した実証実験と農園の遠隔からの定点観測装置の開発を継続
地域の安心・安全(防犯・防災)	こども食堂「アソシエキッズわひがのWA!」の運営サポート(福岡市東区)	高齢者福祉施設が開催する月1回のこども食堂の運営に25名の学生が、毎月交代で参加
	「東区認知症に優しいまちづくり事業」に協力 (福岡市東区)	「認知症サポーター養成講座」や「認知症声掛け訓練」等、認知症への理解を深める取組に参加
	JR香椎駅にて「犯罪防止キャンペーン」に参加(福岡県東警察署)	東部地域大学連携「みんなの防犯会」として犯罪防止啓発活動に参加

33) 情報基盤センター関連設備利用実績

①PC室稼働状況

利用区分	R4	R5	R6
授業利用数	3,141	2,984	3,150
授業外利用数	793	603	680
総合計	3,934	3,587	3,830

②PC利用状況

利用区分	R4	R5	R6
利用者数	30,330	27,206	30,306
ログイン延数	262,005	206,706	222,326

③高度情報化PC利用状況

設置箇所(台数)	R4		R5		R6	
	利用者延数	利用延時間	利用者延数	利用延時間	利用者延数	利用延時間
クリエイティブ・ラボ(19台)	2,095	2,320	3,005	3,305	3,170	3,431
クリエイティブ・ブース(18台)	4,390	6,509	4,760	7,296	3,706	5,470
3F学修スペース(11台)	5,295	3,321	4,157	2,576	3,113	1,822

34) 図書館入館者数・貸出数

利用者区分	R4		R5		R6	
	入館者数	貸出数	入館者数	貸出数	入館者数	貸出数
大学学生	82,403	7,444	105,645	7,183	105,420	7,190
大学院生	2,952	1,191	3,274	1,163	2,704	1,199
短大学生	5,227	304	4,149	331	4,342	364
研究生・科目等履修生	490	38	304	14	581	34
留学生別科	—	—	20	0	14	0
教職員	2,177	997	2,604	663	2,846	884
学内関係者(特別許可者)	1,357	802	1,038	743	1,446	764
学外利用者	281	301	10,925	1,247	19,455	1,967
図書館間相互貸借(ILL)	—	62	—	37	—	36
計	94,887	11,139	127,959	11,381	136,808	12,438

35) 社会連携センター利用学生の資格取得実績

資格・試験名		R5		R6	
		受験者	合格者	受験者	合格者
Microsoft Office Specialist (MOS)	Word	37	36	16	15
	Excel	42	42	19	19
	Power Point	21	21	20	19
ITパスポート		138	23	145	25
うち、情報マネジメント学科		44	6	23	1
基本情報技術者		—	—	24	5
CAD利用技術者試験（2級）		50	41	50	39
バイオ技術者認定試験（上級）		8	2	4	2
バイオ技術者認定試験（中級）		16	7	15	6
バイオ技術者認定試験（初級）		23	22	36	33
CCNA中級		5	4	6	3
WEBクリエイター（エキスパート）		18	18	9	9
CGエンジニア検定（ベーシック）		10	5	10	6
CGクリエイター（ベーシック）		—	—	1	1
マルチメディア検定（ベーシック）		5	3	—	—
日商簿記検定（3級）		20	1	19	2
FE午前免除試験		50	15	54	14
リテールマーケティング2級		9	4	10	7
リテールマーケティング2級予備試験		19	8	9	9
リテールマーケティング3級		33	12	29	18
合計		504	264	476	232

36) モノづくりセンタープロジェクト大会等参加戦績

プロジェクト名	参加大会名等	結果
二足歩行ロボット	「YOKA ロボまつり74 バトル大会」 「YOKA ロボまつり75 バトル大会」 「YOKA ロボまつり76 バトル大会」 「YOKA ロボまつり77 バトル大会」 「YOKA ロボまつり78 バトル大会」	1名参加 ライト級3位 3名参加 ライト級3位 4名参加 2名参加 ヘビー級3位 2名参加 ライト級優勝
	「第42回ヒューマノイドカップ」	2名参加 ライト級優勝、ヘビー級優勝
	「第27回 ROBO-ONE Light」	プロジェクトメンバー4名参加
ロボット相撲	「全日本ロボット相撲関東地区予選会2024」	4名参加 【ラジコン型】2台出場 【自立型】1台出場
	「全日本ロボット相撲近畿地区予選会2024」	7名参加 【ラジコン型】6台出場 【自立型】1台出場
	「全日本ロボット相撲九州地区予選会2024」	9名参加 【ラジコン型】8台出場 【自立型】1台出場 カンーパチ・・・ベスト4(自立型) ※1台全国大会に出場予定
	「全日本ロボット相撲全国大会2024」	4名出場 【自立型】しこ名「カンーパチ」 出場

プロジェクト名	参加大会名等	結果
ロボコン	「九州夏ロボコン2024」	13名（2チーム）参加 「櫻バクシンオー」チーム…技術賞
	「第14回キャチロボバトルコンテスト」	6名参加 決勝T進出（全67チーム中16チーム）、ベスト8、審査員特別賞受賞
	「九州ロボットコンテスト2024モノづくりフェア杯」	2名参加 下戸研究室、城東高校JET-Engineプログラムと合同で参加、優勝（2年連続）
超電導デモ	2024年度市民公開講座超電導デモ機コンテスト	3名出場 6団体（内3大学）中2位
衛星コン	「第32回衛星設計コンテスト」書類審査	アイデア部門 エントリー 作品名「宇宙デブリ軌道制御・除去システムADAMAS」書類提出

37) モノづくりセンタープロジェクト課外活動支援事業・寄贈

プロジェクト名	支援・寄贈	詳細
ロボット相撲 二足歩行ロボット EVフォーミュラカー	「学生チームを対象としたSOLID WORKS 協賛プログラム」 会社:SOLID WORKS様	SOLID WORKS ライセンス 100万円相当
ロボコン	オシロスコープ MS05074 1台 寄贈 会社:RIGOL Japan様	オシロスコープ本体、パッシブプローブ 4本 18万円相当
4輪2輪メンテピット	「2024年度ミスミ学生ものづくりプログラム」 会社:株式会社ミスミグループ本社様	特別支援枠に採択 (10万円相当のミスミ商品提供)
i-STEAM教育教材開発		通常支援枠に採択(6年連続) (5万円相当のミスミ商品提供)
EVフォーミュラカー		通常支援枠に採択(初) (5万円相当のミスミ商品提供)
AI水耕栽培（農業DX）		通常支援枠に採択(初) (5万円相当のミスミ商品提供)
AIによる電気設計の自動化	活動支援金 団体:全九州電気工事業組合様	活動支援金70万円 PlusCAD(有料ソフトの購入に使用)
ロボコン	アルミ板 10枚 提供 会社:ナサ工業株式会社様	制作材料のアルミ板(300×300mm) 10枚

38) 学生表彰者（団体表彰・個人表彰・卒業時学業成績優秀者）

団体表彰（通期）

ラグビー部	第62回木元杯 九州セブンズ 準優勝 令和6年度九州学生ラグビーリーグ 優勝
軟式野球部	令和6年度九州学生軟式野球連盟春季大会 優勝
吹奏楽団	第47回全日本アンサンブルコンテスト大学の部 金賞 第40回福岡県吹奏楽コンクール 大学の部 金賞 第69回九州吹奏楽コンクール大学の部 金賞 第72回全日本吹奏楽コンクール大学の部 銀賞 第18回福岡アンサンブルコンテスト 大学の部 金賞
i-STEM 教材開発グループ 中村 綾 淵上 麻美 前原 彩乃	日本産業技術教育学会発明・工夫作品コンテスト 教材開発部門 特別賞
FITモノづくりセンター(合同チーム)	九州ロボットコンテスト2024 モノづくりフェア杯 優勝
モノづくりセンター 二足ロボットプロジェクト	第42回ヒューマノイドカップ ロボットバトル大会 優勝

個人表彰（上期）

音羽 優舞 (女子柔道部)	第37回 九州学生女子柔道体重別選手権大会 78kg級 3位
------------------	--------------------------------

個人表彰（下期）

岩谷 光 (修士課程 電子情報工学専攻)	国際会議第10回 International Symposium on Surface Science (ISSS-10) Student Prize
-------------------------	---

卒業時学業成績優秀者

・岡本 優斗（電子情報工学科）	・池田 直樹（情報通信工学科）
・白山 結那（生命環境化学科）	・猫田 涼介（情報システム工学科）
・奥菌 遙香（知能機械工学科）	・力丸 真衣（システムマネジメント学科）
・田中 さくら（電気工学科）	・宮崎 豪太（社会環境学科）
・丸木 慧士（情報工学科）	

39) 学会表彰者

<大学院>

Ampririt Phudit(博士後期課程知能情報システム工学専攻)	• BWCCA-2023 Best Paper Award • EIDWT-2024 Best Paper Award
龍 東明(博士後期課程物質生産システム工学専攻)	• 第20回日本炭化学会研究発表会2022年9月 優秀発表奨励賞
岩野 広幸(修士課程生命環境化学専攻)	• JILCW-2024 Premio Iride • ICIESS-2024 Best Student Poster Presentation Award
篠原 成(修士課程生命環境化学専攻)	• 資源・素材学会 九州支部2023年度若手研究者および技術者の研究発表会 Presentation Award Kyushu, MMIJ • ICIESS-2024 Best Student Poster Presentation Award
庄司 綾乃(修士課程生命環境化学専攻)	• 資源・素材学会 九州支部2023年度若手研究者および技術者の研究発表会 Presentation Award Kyushu, MMIJ • 第60回化学関連支部合同九州大会化学工学分野 優秀ポスター賞 • 一般社団法人資源・素材学会九州支部2024年度総会・春季例会・若手研究者および技術者の研究発表会 Presentation Award Kyushu, MMIJ • 第61回化学関連支部合同九州大会 化学工学分野 優秀ポスター賞 • 化学工学会第55回秋季大会 優秀学生賞
鶴嶋 真紅(修士課程生命環境化学専攻)	• 2023年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会 優秀ポスター賞 • ICIESS-2024 Best Student Poster Presentation Award
野中 直也(修士課程生命環境化学専攻)	• JILCW-2024 Premio Iride • 日本化学会「低次元系光機能材料研究会」第13回サマーセミナー 優秀講演賞
藤田 仁(修士課程生命環境化学専攻)	• 令和6年度日本生化学会九州支部例会 優秀ポスター賞銀賞
松尾 剛志(修士課程生命環境化学専攻)	• ICIESS-2024 Best Student Poster Presentation Award
松岡 拓海(修士課程生命環境化学専攻)	• 化学工学会第54回秋季大会 優秀学生賞 • 資源・素材学会 九州支部2024年度総会・春季例会・若手研究者および技術者の研究発表会 Presentation Award Kyushu, MMIJ
宮本 愛(修士課程生命環境化学専攻)	• EANA-2024 Conference, Travel Grant Award
安富 大祐(修士課程生命環境化学専攻)	• 2023年度 物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会 優秀ポスター賞
狩峯 颯太(修士課程知能機械工学専攻)	• ICAVNCE 2025 Best Presentation Award
高野 倫之(修士課程知能機械工学専攻)	• 計測自動制御学会 SICE優秀学生賞
野中 悠仁(修士課程知能機械工学専攻)	• 第75回塑性加工連合講演会 優秀論文講演奨励賞
馬原 亜季(修士課程知能機械工学専攻)	• 2024年度日本エネルギー学会 奨励賞
水野 佑泰(修士課程知能機械工学専攻)	• 2023年度日本精密工学会秋季大会 企業冠賞(フォトテクニカ賞) • 2024年度日本機械学会 三浦賞 • ICIESS-2024 Best Student Oral Presentation Award
山口 順也(修士課程知能機械工学専攻)	• 日本機械学会九州支部第77期講演会 若手優秀講演フェロー賞
鬼塚 晴大(修士課程電気工学専攻)	• 電気学会 優秀論文発表賞B賞
川島 和磨(修士課程電気工学専攻)	• 第76回電気・情報関係学会九州支部連合大会 優秀ポスター賞
小林 柊斗(修士課程電気工学専攻)	• 第76回電気・情報関係学会九州支部連合大会 優秀論文発表賞B賞
下浜 伊織(修士課程電気工学専攻)	• ICEMS-2023 Best Paper Award

<大学院>

馬場 翔太郎(修士課程電気工学専攻)	・第77回電気・情報関係学会九州支部連合大会 優秀ポスター賞
松田 亮太(修士課程電気工学専攻)	・2023年電気設備学会学生研究発表会 準優秀賞
石灘 洸樹(修士課程情報工学専攻)	・2023情報処理学会九州支部 第76回電気・情報関係学会九州支部連合大会 奨励賞 ・2024情報処理学会 第23回情報科学技術フォーラムFIT奨励賞
尾方 勇介(修士課程情報通信工学専攻)	・電子情報通信学会九州支部 学生会講演奨励賞
東 隼也(修士課程情報通信工学専攻)	・BWCCA-2023, Best Paper Award ・EIDWT-2024, Best Paper Award
池田 昂(修士課程情報システム工学専攻)	・International Surgical Week 2024, Grassi Prize Award
下江 博文(修士課程システムマネジメント専攻)	・IEICE九州支部 学術奨励賞
古賀 琴乃(修士課程社会環境学専攻)	・2023技術と社会・倫理(SITE)研究専門委員会 学術奨励賞 ・2024技術と社会・倫理(SITE)研究専門委員会 学術奨励賞

<大学>

大橋 秀幸(電子情報工学科)	・電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
宮原 侑生(生命環境化学科)	・日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞優秀学生賞
白山 結那(生命環境化学科)	・同上
花田 航輝(生命環境化学科)	・資源・素材学会Outstanding Student Award, Kyushu MMIJ
奥 遥香(知能機械工学科)	・日本機械学会 畠山賞
石井 裕貴(知能機械工学科)	・計測自動制御学会 SICE優秀学生賞
中原 栄杜(電気工学科)	・電気学会 九州支部長賞
丸木 慧士(情報工学科)	・電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
福田 順正(情報通信工学科)	・電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
田中 初樹(情報システム工学科)	・電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
黒田 理湖(システムマネジメント学科)	・日本経営工学会 優秀学生賞
山北 彩未(システムマネジメント学科)	・電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞
リ コウネン(システムマネジメント学科)	・ICIESS Best Student Oral Presentation Award
古賀 矢響(システムマネジメント学科)	・日本経営システム学会第73回全国研究発表大会 学生研究発表優秀賞
中島 美生(システムマネジメント学科)	・SOFT九州支部夏季ワークショップ2024 in 熊本 学生優秀ポスター発表賞

3. 短大のMP・APの実施状況

(1) MP・APの基本的な考え方

短大では、高い実務能力と高度な情報活用能力を有する人材の育成を今次 MP 目標に掲げ、この目標に合う多様な教育活動を AP（取組計画）として取り組んでいます。

(2) 取組の実施状況

対面授業のもとで、ICT を活用した授業形態（反転授業、ハイフレックス型授業 **(*1)**）を学生の様々な状況に対応しながら、下記の取組を実施し、従前の教育成果を確保することに注力しました。

(*1) ハイフレックス型授業：同じ授業を対面・オンラインどちらの形式でも行う授業形態。講師は通常の対面授業を行いつつ、ライブ配信・録画を行うことで同じ授業をオンラインでも提供することが可能。学生・生徒は対面かオンラインかを自身で選択し、希望する形で受講

①学習方法の改善

新入生対象基礎学力テスト（数学・情報）をオリエンテーション期間中に実施し、基準未達の学生には補習授業を重ねるなどして、基礎学力の向上を図りました。また、学生自身の課題発見力を高め、課題解決力を身に付けさせる PBL 授業（17 科目）や、新時代に対応できる新たな教育分野の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」 **(*2)** を実施しました。

(*2) 5 年度に文部科学省からリテラシーレベル及び応用基礎レベルで同時認定（応用基礎レベルは全国短大では唯一の認定）

②学生指導の改善

多欠席学生や成績低下学生を抽出し、面談の実施及びご父母等へ文書を送付し注意を促しています。加えて、定期面談継続や科目担当教員、学生相談室・保健室職員と連携を図りつつ継続的なフォローを続け、学内会議等で対応状況について情報を共有しました。

③進路支援

「就職支援」は、日常の学生面談に重きを置きつつ業界研究会・インターンシップフェア・合同企業セミナー等への参加誘導として事前ガイダンス等を実施し、イベント開催後の個人面談も徹底しました。「編入支援」は、「保護者・学生への編入ガイダンス」を初めて開催しました。また、各種対策講座（数学、TOEIC、専門教育科目等）をはじめ、個別指導（面接訓練、志望理由書添削）を重ねました。さらに情報系学部への編入希望者に向けては、福工大編入学生をサポーターとして配置し、専用の学習サポートコーナーを設け学習を徹底しました。

いずれの取組も正課カリキュラム（進路設計）と正課外支援を連動させ教職協働で取り組みました。

(3) 取組の成果とその評価

上述の、①学習方法の改善や、②学生指導の改善の継続の結果、授業評価アンケートでは、・理解度は 94.1%（平均評価ポイント 3.30）、満足度は 96.6%（同 3.53）といずれも目標値を大きく上回り、MDASH では、6 年度卒業生のうち、リテラシーレベルは 118 名（卒業生の 81.3%）、応用基礎レベルは 23 名（卒業生の 16.2%）が修了し、いずれも前年度を上回りました。

その結果として、6 年度退学率は 5.5%（前年度 8.4%）と大幅に改善することができました。

また、上述の、③進路についての支援の結果、就職率100%、編入率100%（内、国公立合格11名）、進路決定率は 90.8%と、いずれも目標を達成することができました。

(4) 今後の課題認識・課題達成方策等

近年の課題としては、入学志願者・入学者の大幅な減少、学力の低下、左記の結果としての就職や編入学における目標進路実現の難化の3つの課題が挙げられます。そこで、これら3つの課題に対応し、7年度以降、以下の改善方策を徹底することによって、課題解決を図ることとしています。

まず、入学志願者・入学者の大幅な減少への対応として、近隣高校(城東高校含む)の生徒や教員に対する情報発信のさらなる強化を行います。

次に、学力低下への対応として、数学科目（基礎学力の低下が顕著）における正課・課外の連動による基礎学力向上や、情報系資格（基本情報技術者や IT パスポート等）における正課への演習組み込み等を実施します。また、SPI では、従前の学力差に応じたオンライン・対面のクラス分けをすべて対面に戻し、全学生の学力底上げを図ります。

最後に、学力低下の結果としての「就職や編入学における目標進路実現の難化」への対応として、学生・ご父母等との連携を密に行い、対面で学生の希望に寄り添う進路支援や各種説明会等への参加誘導の積極化を図り、最大限の効果が発揮できるよう取組を進めます。

(5) 課題達成後の将来の見通し

上記の諸取組や支援強化策を徹底し目標を達成することで、在学生・高校生・ご父母等・高校教員等からの高い信頼と評価を得ることができると考えています。

令和6年度 通期APレビュー集計表（短期大学部）

1.AP計画状況（AP実施単位）

区分	AP事業		レビュー対象事業の達成率			進捗80%以上の割合
	計画	レビュー対象	80%～100%	50%～80%未満	0%～50%未満	
学生募集委員会	4	4	2	0	2	50.0%
入試委員会	2	2	1	1	0	50.0%
教務委員会	4	4	3	0	1	75.0%
教育推進委員会	5	5	5	0	0	100%
学生委員会・ 障がい学生修学支援	3	3	3	0	0	100%
編入学支援委員会	4	4	4	0	0	100%
就職委員会	2	2	2	0	0	100%
自己点検評価委員会	2	2	1	1	0	50.0%
運営委員会	2	2	2	0	0	100%
全体	28	28	23	2	3	82.1%

2.AP詳細

進捗50%未満の取組

区分	事業名	達成目標	実績	達成率
学生募集委員会	城東高校との連携	内部進学 30名以上	内部進学者 12名	40%
	協定校との高短連携の拡大	新規協定校 1校以上	福智高校と協定を 再締結 他	100%
	高校生を対象とした講座の実施	受講者 40名以上	受講者46名	100%
	「情報短大」としてのブランドイメージの確立	志願者 400名以上	志願者167名	42%
入試委員会	入学者の安定的確保	入学者 160名以上	入学者109名	68%
	入学選抜方法の検討	入試総括の作成、入試方法の検討	入試総括作成	100%
教務委員会	学修者本位の教育の推進 （MDASH、PBL科目および卒業研究の実施）	授業アンケート理解度・満足度 2.5点以上	PBL全科目 理解度 3.36 満足度 3.44	100%
	// （夏季・春季休暇中の海外研修）	海外英語研修参加者 4名	参加者なし	0%
	資格取得の支援	受験者 30名	受験者49名 受験料補助18名	100%
	教育課程の評価・改善	カリキュラム評価報告書の提出	運営委員会 で報告	100%
教育推進委員会	講義PDCAの実施	授業アンケート理解度・満足度2.5点以上 他	1科目を除いて 目標達成 他	100%
	FD研修会の開催（夏季・春季）	研修報告書	夏季（オンライン）、春 季（対面）で実施	100%
	入学前教育とリメディアル教育の実施	推薦入学者の成績の分析、補習授業の 実施	入学前教育、ブレース トテスト、課外講座の 実施	100%
	学修者本位の教育の推進 （学修行動調査／授業アンケート）	各調査の回答率50%以上	学修行動調査 66.4%、授業アンケート 70.7%（後期）	100%
	ICTを活用した対面授業の実施（MDASH7'プログラムの 自己点検評価報告書の作成）	講義PDCAの計画・報告書の作成と総 括	全教員から提出 レビュー報告書作成	100%

区分	事業名	達成目標	実績	進捗率
学生会・障がい学生修学支援	修学支援体制の充実 (新入生面談、多欠席面談、成績不良者面談)	学科会議での対応状況報告	面談により状況確認、学科会議で報告	100%
	多様な学生への支援体制の確立 (障がい学生修学支援)	セミナー内容報告の議事録／学生研修計画書、実施報告書	ユニバーサル検定資格取得（職員1名、学生スタッフ2名）	100%
	多様な学生への統合的進路支援の提供	編入・就職希望以外の進路未決定の学生10名以内 他	進路未決定者12名 他	92%
編入学支援委員会	国公立大学への編入学強化	国公立合格者10名、TOEIC450点以上 5名	合格者のべ11名、TOEIC（IP含む）450点以上7名	100%
	福岡工業大学への編入学強化	合格者 20名	合格者 25名	100%
	受験支援の強化	受験等の旅費補助、編入説明会、保護者がイダックス、新規推薦受験大学の獲得 他	新規推薦受験大学の獲得 1大学 他	94%
	基礎学力の向上 (SPI講座、編入対策学生サポーター、先輩達による体験談・座談会)	SPI 非言語得点平均値 1段階アップ 他	SPI 非言語得点平均値 1段階アップ 他	100%
就職委員会	新卒採用の変化に対応した就職支援体制の再構築	就職率 95%	就職率98.3% (3/4時点)	100%
	情報関連企業・職種への就職支援強化	情報関連企業・職種への就職者 50%	就職者割合44.1% (3/4時点)	88%
自己点検評価委員会	教員評価制度の実施	2023年度優秀教員の表彰、2024年度評価実施	教員評価データ集計、冊子配付 他	75%
	自己点検・評価活動の推進	課題改善、報告書のWeb公開	報告書Web公開	100%
運営委員会	教育課程の編成方針の策定 (カリキュラムに関する意見交換会、アンケート調査等)	各実施報告書	企業・連携高校・学生委員へのアンケート実施	100%
	// (カリキュラム評価報告を基に編成方針を策定)	教育課程の編成方針策定	チームティーチングを導入する編成方針を策定	100%

※達成目標が複数にわたる場合の進捗率は、単純平均とする（少数第1位切り上げ）。

また、指標達成率が100%以上の場合は100%として算出している。

令和7年度AP計画 集計表（短期大学部）

1.AP進捗状況（部門全体）

区分	令和7年度 AP項目数	令和6年度 AP項目数	前年比増減	新規事業
短期大学部（全体）	28	28	0	2

2.AP計画状況（AP実施単位）

区分	令和7年度 AP項目数	令和6年度 AP項目数	前年比増減	新規事業
学生募集委員会	4	4	0	0
入試委員会	2	2	0	0
教務委員会	4	4	0	0
教育推進委員会	4	5	-1	0
学生委員会・ 障がい学生修学支援	3	3	0	0
編入学支援委員会	4	4	0	0
就職委員会	2	2	0	0
自己点検評価委員会	2	2	0	0
運営委員会	3	2	1	2
全体	28	28	0	2

3.AP詳細 短期大学部

（金額単位：千円）

区分	事業名	達成目標	実績	達成率	特別予算
学生募集 委員会	城東高校との連携	内部進学 30名以上			100
	協定校との高短連携の拡大	新規協定校 1校以上			20
	高校生を対象とした講座の実施	受講者 40名以上			50
	「情報短大」としてのブランドイメージの確立	志願者 300名以上			180
入試委員会	入学者の安定的確保	入学者 160名以上			—
	入試選抜方法の検討	入試総括の作成、入試方法の検討			—
教務委員会	学修者本位の教育の推進 （MDASH、PBL科目および卒業研究の実施）	授業アンケート理解度・満足度 2.5点以上			1,200
	学修者本位の教育の推進 （夏季・春季休暇中の海外研修）	海外英語研修参加者 4名			60
	資格取得の支援	実務系資格受験者：30名			150
	教育課程の評価・改善	カリキュラム評価報告書の提出			—

区分	事業名	達成目標	実績	進捗率	特別予算
教育推進委員会	講義PDCAの実施	授業アンケート理解度・満足度 2.5点以上 他			—
	FD研修会の開催	研修報告書			100
	入学前教育とリメディアル教育の実施	入学試験における基礎学力テストの成績分析、講座の実施			2,550
	学修者本位の教育の推進 (学修行動調査／授業アンケート)	各調査の回答率50%以上			—
学生委員会・障がい学生修学支援	修学支援体制の充実	学科会議での対応状況報告			—
	障がい学生修学支援の形式知化	授業関連支援のノウハウに関する書類			30
	多様な学生への統合的進路支援の提供	進路未決定の学生数10名以内			—
編入学支援委員会	国公立大学への編入学強化	国公立合格者10名、TOEIC450点以上 5名			17
	福岡工業大学への編入学強化	福工大合格者 20名			—
	受験支援の強化	編入決定率 95% 他			445
	基礎学力の向上 (SPI講座、編入対策学生サポーター、先輩達による体験談・座談会)	SPI 非言語得点平均値 1段階アップ 他			700
就職委員会	学生の変化に対応した就職支援体制の構築	就職率 95%			2,005
	情報系進路への就職支援	情報系就職決定者割合 50%			—
自己点検評価委員会	教員評価制度の実施	2024年度優秀教員の表彰、2025年度評価実施			—
	自己点検・評価活動の推進	課題改善、報告書のWeb公開			—
運営委員会	新しい教育基盤の構築	各実施報告書			—
	現基盤の安定化	関連委員会の進捗と運営委員会によるレビュー			—
	数理・データサイエンス・AI教育の推進と評価	MDASH自己点検評価報告書の作成			—

総評（レビューコメント）

1. 令和6年度通期APレビュー

- ・短大全体で、28事業のAPを計画し、その全てがレビュー対象となった。
- ・28事業のうち、23事業が80%超の達成率となっており高く評価できる（高達成率の割合82.1%（前年度85.2%））。
- ・編入決定率は、100%（前年度100%）と目標の95%を達成しており、国公立大学への編入合格者は目標10名に対し、延べ11名（前年度延べ9名）が合格している。
- ・就職率は、95%の目標に対し、98.3%（前年度100%）であり、目標達成した。一方、情報系への就職は目標50%に対し、44.1%と目標を下回る結果となった。
- ・志願者は第9次マスタープラン目標400名に対し、187名（前年度288名）という結果となった。
- ・また、「入学者の安定的な確保」については、2022年度まで13年連続での定員充足を達成したものの、当年度は入学者109名（前年度154名）で入学定員160名を大きく下回る結果となった。

課題コメント抜粋

<学生募集>

- ・城東高校からの内部進学者数の低迷が深刻化している。
⇒城東高校の1・2年生に向けた短大説明会、ワークショップなどを開催し、短大の学びの特色を伝えていく必要がある。

<教務委員会>

- ・夏季・春季休暇中の海外研修の実施に関して、参加者を集めることができていない。
⇒ゼミ等で積極的にアナウンスを行う。

<教育推進委員会>

- ・中学数学のレベルにある学生が増加傾向にある。
⇒課外講座および正課科目の連動により基礎学力向上を目指す。

<学生委員会>

- ・修学支援体制において、1年生の進級不可率が16%と高い結果となった。
⇒1年生の留年生に焦点を当てて、学修状態を学科会議で確認していく。

<編入学支援委員会>

- ・近郊私立大学編入説明会の参加率が低い（前年比77%）。
⇒参加者は2年後期必修科目「進路設計ⅡB」の1回目の出席とみなす。また、その旨を予め、学生・各CAに周知する。

<就職委員会>

- ・SPI対策講座では、本来対面受講にも関わらず、オンラインのみの受講をする学生が散見された。
⇒SPI対面講座を2クラスから3クラスへ拡充するとともに、習熟度別クラス間の入れ替えを行い、学生のモチベーションアップを図る

2. 令和7年度AP計画に対するコメント

- ・短大全体で、28事業の計画が策定された。※新規事業は2事業
- ・第10次MP初年度となる令和7年度AP計画では、第9次MP最終年度である令和6年度APレビューの課題・改善策等を反映しつつ、確実な計画実行および目標達成に繋げていただきたい。

以 上

4. 高校のMP・APの実施状況

(1) MP・APの基本的な考え方

高校では、社会の変化に能動的に対応し、主体的に社会に働きかける能力を有する人材の育成を、今次のMP目標に掲げ、この目標に適う多様な教育活動をAP（取組計画）として取り組んでいます。

(2) 取組の実施状況

まず、募集活動では、過年度から継続して中学校訪問を実施しており、当年度も、中学校教員との緊密な信頼関係を構築しました。これは、募集イベントの中学生・保護者への確実な周知によって、学校説明会での多くの来場に繋がっていることから裏付けられます。あわせて、スクールポリシーで定められているアドミッション・ポリシーの周知を図り、入学後のミスマッチ防止に努めました。

次に、教育活動では、今後の工業科教育の方向性を定める改組ワーキンググループを発足させ、電気科・電子情報科の枠組み見直しを含めた工業教育のあり方を検討しています。さらに「DX ハイスクール」（※1）R6 年度文部科学省採択）の趣旨に適う情報教育強化策として、「情報」科目の正規カリキュラム化や、高スペック PC の導入、並びにグループ学習に資する PC 教室の整備に取り組みました。

※1 デジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化を目指す国の事業

また、進学指導では、難関国公立大学への近年の進学低迷を踏まえ、定期考査や模試結果をさらに詳細に分析し、上位進学先の合格を獲得できるよう補習を強化しました。就職指導では、第一希望就職先への全員内定を目標に掲げ、文書作成指導や面接指導を行うとともに、公務員希望者に対しては、放課後を活用した公務員試験対策を実施しました。

(3) 取組成果とその評価

志願者数は、公立高校の推薦入試合格発表日前倒しの影響を受け前年度より低下したものの入学者は、5 年度入試での過大な入学者受入れの対応として入学者抑制策を講じた結果、ほぼ当初目標どおりの入学者を確保しました。工業科改組では、改組案をまとめ福岡県への申請準備を整えました。これにより普通科と工業科を併せ持つ本校の特色をさらに発揮し、併せて、「DX ハイスクール」採択校に求められる情報教育を実践することができます。進学指導の成果としては、第9次MP目標である国公立大学合格者数目標を上回り、近年では最高となり、このうち、難関国公立大学の合格者も昨年度から改善しました。就職指導の成果としては、就職率 100 %（12 年連続）を達成し、公務員採用試験についても希望者全員が内定を獲得しました。

(4) 今後の課題認識・課題達成方策等

今後の課題としては、①志願者・入学者の安定確保、②改組後の工業教育、③進路支援体制構築、④教育活動を支える教員組織構築があげられます。かかる課題に対応するため、次年度から次の改善策を実施します。①②について、本校のプレゼンスアップに繋がる教育活動を引き続き行います。特に、工業科改組に向け、併設の福岡工業大学との高大接続教育をいっそう強化し、高校水準では得られない高度な教育内容を展開します。併せて、生徒活動の活発化を促し、メディアに注目されるような取組を支援します。③について、次年度以降、入学当初からコース毎に目標を定め早期から対策を行うことにより目標を達成します。④について、教科メンター制や2名担任制導入により、従前不足していた人材育成・職能育成を行い、強固な教員組織の構築を目指します。

(5) 課題達成後の将来見通し

これらの課題達成を通じ、第10次MPの初年度となるR7年度APを確実に遂行し、目標の達成につなげます。

令和6年度AP通期レビュー 集計表（城東高校）

1. AP進捗状況（AP実施単位）

経営戦略	区分	AP事業		レビュー対象事業の達成率			進捗50%以上の割合
		計画	レビュー対象	80%～100%	50%～80%未満	0%～50%未満	
【戦略Ⅰ】	広報主任	3	3	3	0	0	100%
	募集主任	5	5	4	0	1	80.0%
	教務・募集主任	3	3	2	1	0	66.7%
【戦略Ⅱ】 （【戦略Ⅴ】）	副校長	5	2	1	0	1	50.0%
	教務・グローバル主任・キャリア主任	10	8	4	2	2	50.0%
【戦略Ⅳ】	進学主事	4	3	3	0	0	100%
	進路主事	3	3	3	0	0	100%
全体		33	27	20	3	4	74.1%

2. AP詳細

進捗50%未満の取組

区分	事業名	達成目標	実績	達成率
【戦略Ⅰ】 広報主任	発信する情報の質の向上(マスメディアへの露出増加と本校の効果的なアピール)	年6回の露出	11回	100%
	〃 (インスタグラムを使った情報発信とフォロワーからの閲覧の習慣化)	インスタグラム更新 週1回以上 フォロワー2,500人	生徒発信の投稿増 フォロワー3,837人	100%
	〃 (パンフレットで他校との差別化)	「教育力の高い高校」のブランディング推進	学内外で好評	100%
【戦略Ⅰ】 募集主任	効果的な募集活動の展開(新入生とその保護者へのアンケートによる募集戦略の検証)	本校を志願・入学を決めた要因を分析し、イベント、広報物、募集戦略を検証	アンケート分析結果をもとにR7募集活動を展開	100%
	〃 (模擬試験の分析による中学生の志望動向の把握)	中学生模試11月総受験者のうち本校第1志望率15%	本校第1志望率7.1%	47%
		公立高校との併願率 福高50% 香住丘60% 新宮80% 香椎65%	福高49.1% 香住丘54% 新宮62.1% 香椎66%	92%
	〃 (来校中学生・保護者へのアンケート調査を実施、魅力ある情報発信の度合いを測る)	中学生、保護者へのアンケートを分析	全説明会でアンケート実施	100%
	〃 (工業科の志願者・入学者確保に向けた工業科イベントの積極的な実施)	工業に関する説明会の参加者(中学生・保護者)500名	参加申込数目標達成	100%
【戦略Ⅰ】 教務主任 募集主任	生徒の成長の見える化(「生徒ポートフォリオシステム」の活用)	生徒ポートフォリオシステムへの入力率80%、定期考査素点・模試偏差値推移の確認	システムへの入力促進	68%
	〃 (生徒の成績や諸活動等を一元管理し生徒の成長を可視化。「個人カルテ」の作成)	訪問校 132校へ提供	入試データと紐づけ、可視化	100%
	〃 (中学校訪問で「個人カルテ」を活用、教育活動の認知度向上)		在校生の状況を発信	100%

区分	事業名	達成目標	実績	達成率
【戦略Ⅱ】 副校長	スクールポリシーの実質化（教員への浸透）	校内掲示や研修や会議で話題に上げる（年12回）	予算不足で掲示は断念	20%
	〃（教育活動をスクールポリシーの観点から見直し、グラデュエーションポリシーとの紐付け）	教育活動とGPの対応表の完成	教育活動とポリシーの照合までは至っていない	
	人材育成・職能育成を目指した研修等のシステムの構築と実践	令和5年度に見えた「新しい目標管理システムの課題」を改善	2人担任制と教科メンター制の導入	80%
	〃（個々の担任力の向上と組織で課題に立ち向かうマインドを育成）	育成システムの完成		
	〃（教員育成研修制度の構築と個々の研修の効果を測定）	教員研修制度の完成		
【戦略Ⅱ】 教務主任	「可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」の研究と実践(授業での学習支援ソフト活用の促進)	個別学習アプリ（スタディアプリ）の活用状況 75%	活用状況はクラスによって二極化	25%
	〃（家庭学習における個別学習アプリの利用方法を再定義）			
	〃（対面授業とICT活用を組み合わせた協働的な学びの実践）	授業における探究的な活動の実施状況	各教科での協議に留まる	40%
	「社会に開かれた教育課程」の実践(教科学習における協働的な学び、探究的な学びの機会の増加。教科横断的な学びの実現に向けた検討)	授業見学で取り組み状況の共有	他教科を見る機会は増加	
【戦略Ⅱ】 グローバル 主任	「社会に開かれた教育課程」の実践 (海外留学を通し国内外の多様な思想や知識、文化的背景を持つ人々との交流機会創出 他)	留学プログラムへの参加生徒数 合計60名以上 他	留学プログラム実 採用生徒数64名 (過去最多)	100%
		校内外のグローバルイベントの案内、実施 15件以上	校外12件 校内12件	100%
		類コースによるイベント参加生徒数の偏り減らす	工業系学科はまだまだ国際感覚の醸成が必要	70%
	〃（校内へ留学生を招き、より多くの生徒の国際的な視野を養う）	5教室以上で留学生の短期受け入れ実施	留学生交流 10クラス	100%
	〃（各グローバルプログラム後のアンケート実施）	各プログラム後のアンケート 満足度8点以上／10点	生徒満足度 アンケート9.6/10	100%
	【戦略Ⅱ】 キャリア 主任	「社会に開かれた教育課程」の実践（「社会のリーダーとなり得る人材の育成」をテーマとしたキャリア教育の深化）	クエストカップへの 出場権獲得2回	プログラムを実施 70%

区分	事業名	達成目標	実績	達成率
【戦略Ⅳ】 進学主事	組織的な進路支援体制づくり(大学進学指導力強化を目的とした教員の大学派遣)	「大学視察報告会」の実施 教員対象：各コース会にて1～2回 生徒対象：年2～3回 他	合同説明会、大学訪問 5回	80%
	〃 (進路指導の重要性(教員)と進路研究の意識付け(生徒)を目的とした「大学視察報告会」の実施)		Ⅱ類教員への報告会、生徒向け説明会実施	
	〃 (生徒の演習量不足と教員の入試問題等に関する指導力向上を目的とした「校内予備校」の実施)	外部講師を招いた「校内予備校」の実施：年2回 他	1回実施	90%
		「大学視察報告会」「校内予備校」のアンケート実施、教員の講義参加延べ数の調査	アンケート実施、教員の授業参観は微増	83%
【戦略Ⅳ】 進路主事	就職希望者に対する早期からの指導・支援(個別面談)	2～3回	実施	100%
	〃 (就職ガイダンス)			
	〃 (企業研究、見学会の参加(教員・生徒))	通年	実施	100%
	〃 (就職対策補習・模試実施)			
	〃 (公務員について外部委託(講師)を導入)	外部講師を招聘した無料講座	実施	100%

※達成目標が複数にわたる場合、進捗率は単純平均。ただし、100%以上は100%として算出している。

令和7年度AP計画 集計表（城東高校）

1.AP進捗状況（部門全体）

区分	令和7年度 AP項目数	令和6年度 AP項目数	前年比増減
城東高校（全体）	21	27	-6

2.AP詳細 城東高校

区分	事業名	達成目標	実績	達成率
管理	教育戦略室（IR専門部署）の設置と稼働	データ分析・行動計画の提示：6件以上、改善率100%		
	教員採用システムの構築と運用	教員採用説明会に参加し、学生とのコンタクト数を増やす等		
	教科メンター制の採用	週1コマの面談を義務化し、面談内容の月例報告を実施		
	2人担任制の採用	学年主任へのヒアリング（月1回）の実施		
	階層別研修制度の構築と運用	階層別研修制度の素案完成		
	コースチーム制の整備	外部機関との連携強化のための協議等（協定の打診など）		
	合理的配慮を必要とする生徒の支援体制の強化	合理的配慮に係るマニュアルの作成		
	教職協働の促進	各校務分掌の主任主事に聴き取り調査を実施（年3回）		
	学校行事の精選	生徒・教員・保護者の意見を反映した行事の見直し等		
入口	各種説明会・学校見学会・講演会でのアドミッションポリシーの継続的訴求	新入生回答率100%、保護者回答率60%等		
中身	コース毎の教科指導計画および学習指導計画の作成と実行	学習内容の明確化と指導目標の設定等		
	思考力、表現力、判断力、読解力、文章組立能力を育成する学習活動の展開	定期考査や外部模試成績の定点観測等		
	放課後学習指導体制の確立	先進校への視察等		
	外部資源の積極的活用（高大教育連携・高短教育連携含む）	研究施設の見学や大学教授による特別授業の実施（年3回以上）		
	地域課題解決・地域貢献を目指した探究授業や正課外活動の実施	地域イベントの企画・運営への参加（年3回以上）		
	真のグローバル教育の実践と深化	協力校とのオンライン交流や合同プロジェクトの実施等		
	工業系学科の改編とDXハイスクール事業の推進	新学科各コースの指導計画原案の完成		
出口	コース毎の進路指導計画の作成と実行	進路選択のための体験学習等の実施		
	朝補習・放課後補習・土曜講座の目的の明確化と講座内容の充実	ターム制朝補習の開講講座の見直し等の協議		
	年内入試受験に向けた進学支援体制の構築と運用	年内入試に特化した個別進路指導の強化等の協議		
	就職希望者に対する就職支援計画の作成と実行	個別の進路相談を定期的（個別に3回）に実施		

総評（事務局レビューコメント）

1. 令和6年度AP通期レビュー

【全体】

- ・高校全体で、33件のAPを計画し、27件が通期レビュー対象となった。
- ・年間で進捗80%以上の割合が74.1%（昨年度68.4%）であった。（参考：大学88.1%、短大82.1%）
- ・全体を通して、前年課題に対する精緻な分析がなされ、解決策を導き出した事業が増加しており、PDCAサイクルが、さらに有効に機能していることが窺える。

【戦略Ⅰ】

- ・志願者は1,364名、入学者586名と第9次MP目標値（志願者2,000名以上、入学者630名±α）を下回る結果となった。今後は、第10次MPで掲げる目標値の達成に向け、改善に資する取組みを期待する。
- ・マスメディアを活用した広報活動では、多数のメディアに取り上げられた事で、TVや新聞などでの露出が増加傾向である（R5年度8回⇒R6年度11回）
- ・広報用の公式SNSアカウントにおけるフォロワー数は、3,837人に到達し（目標値：2,500人）、週1回以上の更新頻度も維持することが出来ている。令和7年度より、公式アカウントの管理を生徒に移管することから、今後は生徒目線による情報発信にも期待する。
- ・新入生や保護者を対象としたアンケートを分析し、データに基づき、令和7年度募集活動が展開された。

【戦略Ⅱ】

- ・教員のスクールポリシーに対する意識は上がったものの、教育活動と紐づけた主任主事の行動は見られていない。スクールポリシーと照らした教育活動の実施を目指すためにも、継続的な周知活動を実施していく必要がある。
- ・グローバル、キャリア教育など、城東高校の特色が更に深化したことが窺える。一方、ICTを活用した教育活動には課題も残るが、問題点と解決策が明確であるため、今後の改善が期待される。

【戦略Ⅳ】

（大学進学）

- ・国公立大学合格者は、第9次MP目標の100名を上回る101名であり、過去6年間での最高値を記録した。一方、九州大学他難関国公立大学合格者については目標の15名を下回る7名と厳しい結果となった（3月末現在）。MARCH、関関同立等の難関・有名私立大への合格実績については、前年並みの高水準を維持している。

（就職）

- ・1社目内定率は、第9次MP目標の100%を下回る98%であったが、就職希望者全員内定を達成した。また、公務員内定数も12名と大きく数字を伸ばしており、かねてからの課題であった公務員浪人生は、史上初の0人を記録し、全ての希望者が内定を果たす良好な結果となった。

2. 令和7年度AP計画

- ・高校全体で、21事業を策定している。前年比で6件減少しているものの、策定された21事業のほぼ全てが新規事業であり、第10次MPに則った事業内容の刷新が図られている。
- ・教育指導や進路指導の更なる高度化を目指した、教育戦略室の設置や、工業系学科改組に係るAP事業の策定など、城東高校のプレゼンスアップに繋がる取組みが多くみられる。
- ・前年度の課題であった、人材育成・職能育成を目指した研修等のシステム構築については、教科メンター制の採用や階層別研修の実施に関して、それぞれ明確な課題認識のもとで事業設定がなされている。
- ・令和6年度APレビューの解決策・改善策を反映させ、第10次MPキックオフ年度となる令和7年度APを確実に遂行し、中期経営計画で掲げる目標の達成をお願いしたい。

以 上

高校の大学等合格実績・就職状況

国公立大学	R5	R6	R7
九州大学	5	1	5
九州工業大学	2	14	7
福岡教育大学	2	4	7
佐賀大学	10	12	10
長崎大学	2	6	4
熊本大学	3	5	9
大分大学	2	1	4
宮崎大学	2	5	2
鹿児島大学	2	3	3
琉球大学	1	0	1
北海道教育大学岩見沢校	0	0	1
室蘭工業大学	0	0	1
山形大学	0	1	0
筑波大学	0	1	0
宇都宮大学	0	1	0
群馬大学	1	0	0
東京外国語大学	0	1	0
富山大学	0	0	1
信州大学	0	0	1
山梨大学	0	0	1
岐阜大学	0	1	0
静岡大学	0	0	1
大阪大学	1	1	2
大阪教育大学	0	0	2
神戸大学	0	1	0
鳥取大学	0	1	0
岡山大学	0	1	0
広島大学	0	4	0
山口大学	1	1	0
愛媛大学	0	0	3
高知大学	0	0	1
北九州市立大学	13	12	14
福岡県立大学	0	1	0
福岡女子大学	3	1	3
長崎県立大学	2	0	1
熊本県立大学	1	0	0
大分県立看護科学大学	0	0	1
名桜大学	1	0	2
沖縄県立看護大学	0	1	0
釧路公立大学	0	1	0
横浜国立大学	0	0	1
福井県立大学	0	1	0
都留文科大学	1	0	0
静岡文化芸術大学	0	0	1
大阪公立大学	0	0	1
岡山県立大学	0	0	1
公立鳥取環境大学	0	1	0
県立広島大学	0	1	0
山口県立大学	0	0	2
山陽小野田市立山口東京理科大学	1	3	2
下関市立大学	1	1	3
高知工科大学	0	0	4
国公立大学計	57	88	102

準大学等	R5	R6	R7
防衛医科大学校	0	3	0
防衛大学校	2	2	6
航空保安大学校	0	1	0
職業能力開発総合大学校	2	0	0
九州職業能力開発大学校	7	12	9
北海道職業能力開発大学校	0	1	0
関東職業能力開発大学校	0	0	1
千葉職業能力開発短期大学校	1	0	0
国公立大学・準大学等計	69	107	118

私立大学	R5	R6	R7
早稲田大学	1	0	1
慶應義塾大学	0	0	2
上智大学	1	0	0
東京理科大学	2	2	2
明治大学	3	0	4
青山学院大学	1	1	2
立教大学	0	0	1
中央大学	1	6	2
法政大学	3	4	5
関西大学	0	2	4
関西学院大学	1	5	17
同志社大学	10	5	9
立命館大学	15	14	34
北海道医療大学	0	0	2
札幌学院大学	0	0	1
日本ウェルネススポーツ大学	0	0	1
東北医科薬科大学	0	0	1
流通経済大学	1	0	1
国際医療福祉大学	3	1	6
育英大学	0	0	1
上武大学	0	0	2
高崎健康福祉大学	0	1	0
共栄大学	1	0	0
駿河台大学	0	0	1
津田塾大学	0	0	1
東京国際大学	0	2	0
文教大学	0	0	2
淑徳大学	0	0	1
千葉工業大学	1	1	4
桜美林大学	0	1	0
大妻女子大学	1	0	4
北里大学	0	1	0
工学院大学	2	1	0
國學院大学	0	0	1
国士舘大学	1	0	0
駒澤大学	5	5	4
芝浦工業大学	0	1	3
昭和女子大学	1	0	0
専修大学	0	0	2
創価大学	2	0	0
大東文化大学	1	4	0
拓殖大学	7	0	0
玉川大学	0	2	1
帝京科学大学	0	0	2
帝京大学	12	6	2
東海大学	5	3	3
東京電機大学	2	0	0
東京農業大学	0	3	2
桐朋学園大学	1	0	0
東洋大学	0	0	2
日本歯科大学	0	0	1
日本社会事業大学	0	1	0
日本獣医生命科学大学	0	0	1
日本体育大学	3	1	0
日本赤十字看護大学	1	0	0
日本大学	2	1	6
文化学園大学	1	0	0
明治学院大学	0	2	1
神奈川工科大学	1	0	0
神奈川大学	0	1	1
鎌倉女子大学	0	1	0
関東学院大学	1	2	2
洗足学園音楽大学	1	0	0
金沢工業大学	3	1	2

私立大学	R5	R6	R7
松本歯科大学	0	0	1
朝日大学	2	0	1
愛知学院大学	1	0	1
大同大学	0	1	0
中京大学	0	1	0
同朋大学	0	2	0
名古屋外国語大学	0	2	1
名古屋学芸大学	0	0	2
名古屋芸術大学	2	0	0
南山大学	2	0	0
日本福祉大学	1	5	2
人間環境大学	0	0	1
名城大学	0	2	1
京都産業大学	1	13	0
京都女子大学	0	4	0
京都精華大学	1	1	2
同志社女子大学	0	1	2
佛敎大学	1	0	1
龍谷大学	2	4	3
追手門学院大学	0	2	0
大阪学院大学	2	0	0
大阪経済大学	0	0	1
大阪芸術大学	1	3	0
大阪工業大学	0	0	1
大阪産業大学	5	15	0
大阪体育大学	0	3	0
大阪電気通信大学	1	0	0
関西外国語大学	0	5	1
近畿大学	16	30	26
阪南大学	0	0	1
桃山学院大学	0	2	0
芦屋大学	0	0	1
関西福祉大学	0	0	1
神戸学院大学	0	1	0
神戸女子大学	1	0	1
園田学園大学	0	0	1
兵庫医科大学	0	0	2
武庫川女子大学	0	0	1
天理大学	0	2	0
奈良大学	0	0	1
岡山理科大学	2	0	0
環太平洋大学	3	0	0
比治山大学	0	2	0
広島経済大学	1	0	0
広島工業大学	0	3	1
広島国際大学	2	2	0
福山大学	0	1	2
安田女子大学	0	1	0
東亜大学	0	2	2
梅光学院大学	0	1	0
松山大学	1	0	0
テンブル大学	0	1	0
シドニー工科大学附属カレッジ	0	0	1
ティラーズ大学	2	0	0
東京通信大学	0	0	1
近畿大学（通信教育課程）	0	0	1

私立大学(九州地区)	R5	R6	R7
福岡工業大学	1,175	1,257	961
西南学院大学	50	64	56
福岡大学	191	206	202
九州産業大学	137	110	90
九州栄養福祉大学	3	1	3
九州共立大学	12	9	7
九州国際大学	4	7	3
九州情報大学	0	0	2
九州女子大学	3	2	5
久留米工業大学	11	4	4
久留米大学	26	36	10
産業医科大学	0	6	2
純真学園大学	6	7	3
西南女学院大学	4	4	1
聖マリア学院大学	4	1	1
第一薬科大学	1	1	0
筑紫学園大学	17	18	3
中村学園大学	19	23	16
西日本工業大学	4	2	1
日本経済大学	2	6	3
日本赤十字九州国際看護大学	3	4	3
福岡看護大学	1	1	2
福岡国際医療福祉大学	7	7	5
福岡歯科大学	0	1	2
福岡女学院看護大学	5	3	7
福岡女学院大学	30	31	10
令和健康科学大学	10	8	9
西九州大学	1	0	1
活水女子大学	1	0	0
長崎国際大学	1	1	4
長崎総合科学大学	1	0	0
熊本学園大学	1	0	0
崇城大学	4	1	3
日本文理大学	2	0	2
別府大学	1	0	0
立命館アジア太平洋大学	0	5	5
九州保健福祉大学	1	0	0
宮崎国際大学	1	0	0
鹿児島純心女子大学	1	0	0
私立大学計	1,887	2,019	1,637
大学計	1,956	2,126	1,755

短期大学	R5	R6	R7
福岡工業大学短期大学部	140	40	42
その他の短大	25	17	9
短期大学計	165	57	51

高校の就職状況

就職状況	就職希望者	内定者	内定率
R6	53	53	100%
R5	45	45	100%
R4	83	77	92.8%